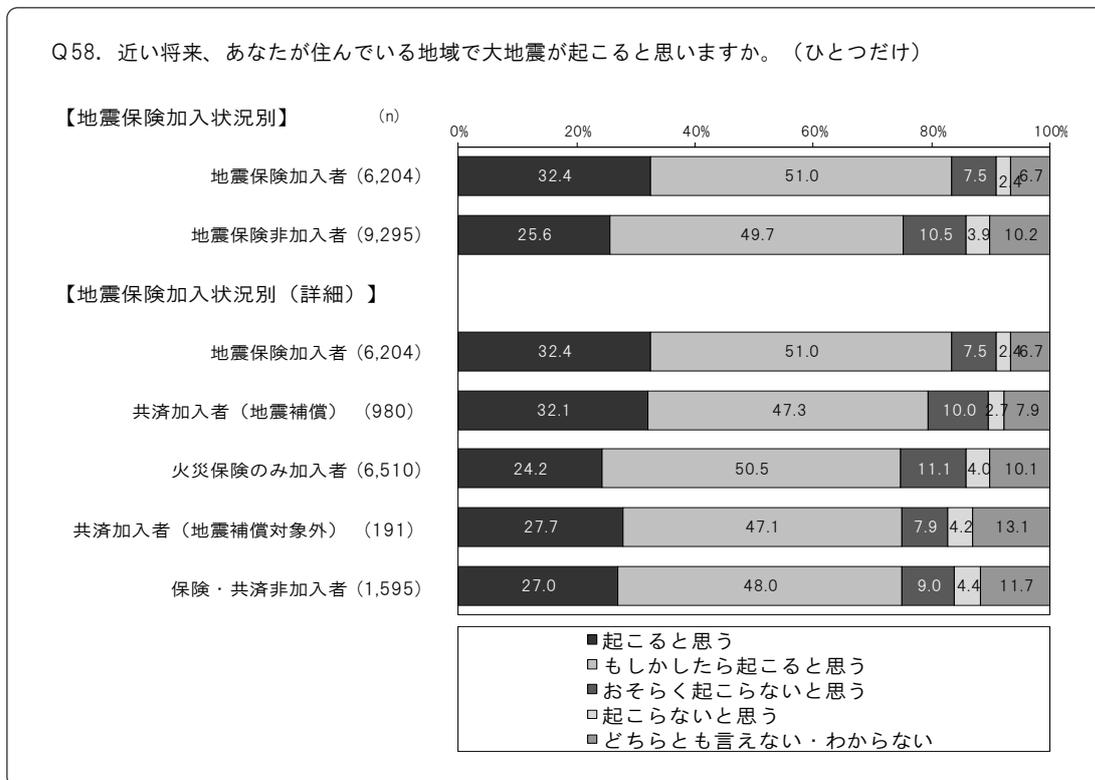


3. 地震危険に対する意識等

(1) 大地震発生の可能性

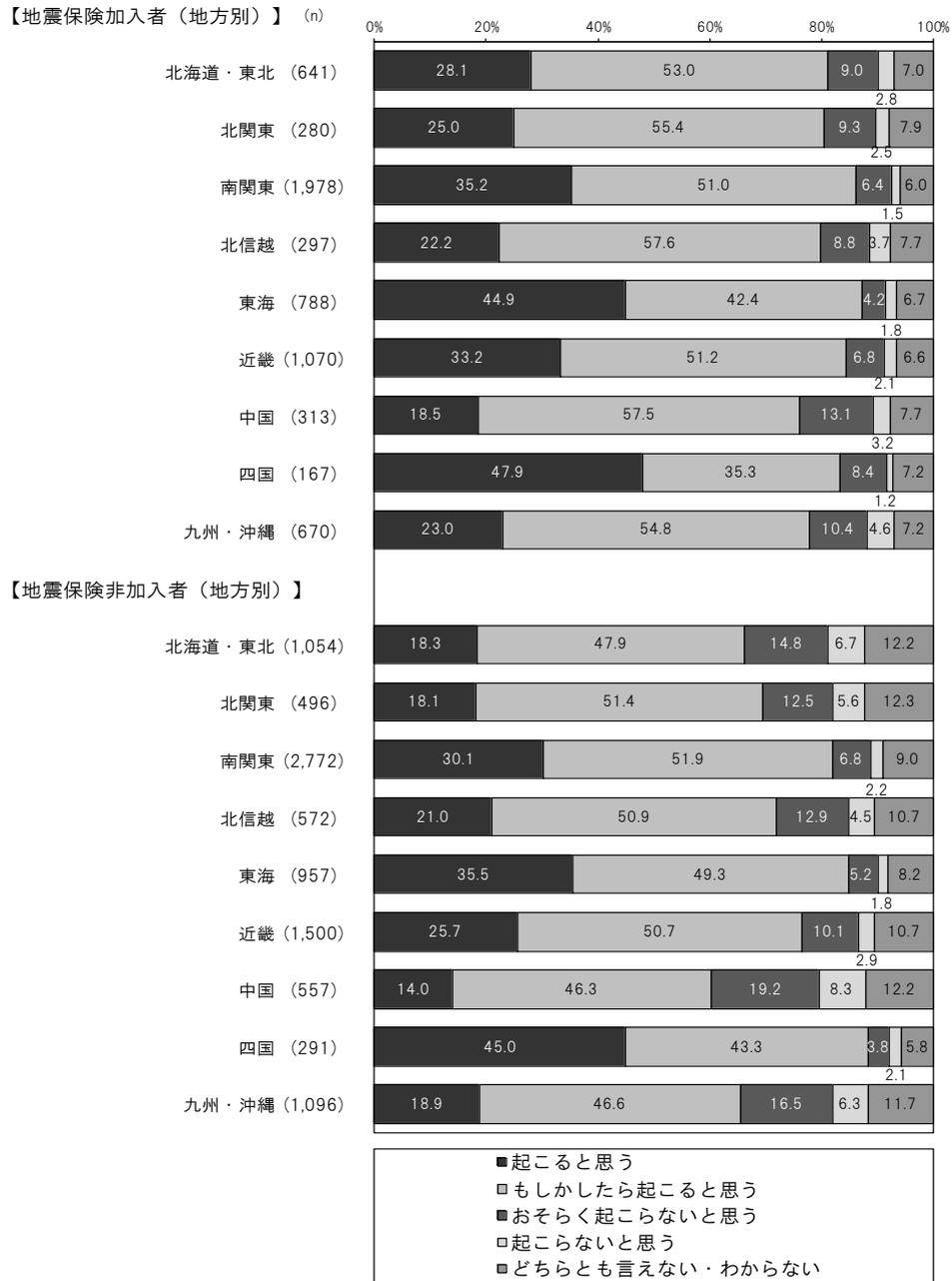
① 大地震発生の可能性の意識



現在の居住地域で大地震が起こる可能性について、「起こると思う」と「もしかしたら起こると思う」を合わせた比率をみると、地震保険加入者は83.4%（＝32.4%＋51.0%）、地震保険非加入者は75.3%（＝25.6%＋49.7%）で、約8ポイントの差がある。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）では「起こると思う」と「もしかしたら起こると思う」を合わせた比率は79.5%（＝32.1%＋47.3%）となっており、他の区分をやや上回る。

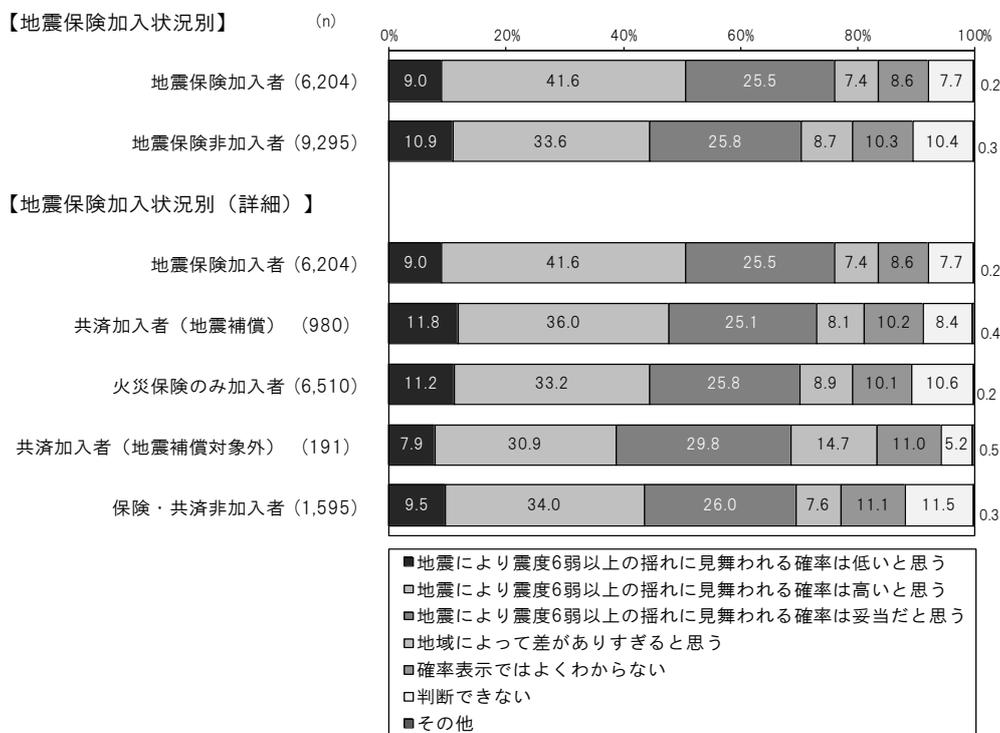
《参考》大地震発生の可能性の意識を地方別に集計



《参考》は、地方別に集計した結果である。地震保険加入者・非加入者ともに、南関東、東海、四国で「起こると思う」の比率が高い。

② 地震危険度

Q59. 政府の地震調査研究推進本部が公表している、「確率論的地震動予測地図」をご覧になって、あなたが住んでいる地域の地震危険度は、どのように思いますか。
次のうち一番近い感想をお答えください。（ひとつだけ）



*アンケート内で回答者に確認いただいた資料は、【付録2】を参照

「確率論的地震動予測地図」を提示して、居住地域の地震危険度の感想を質問したところ、地震保険加入者・非加入者ともに「地震により震度6弱以上の揺れに見舞われる確率は高いと思う」の比率が最も高くなっているが、地震保険加入者では41.6%、地震保険非加入者では33.6%と、約8ポイントの差がある。

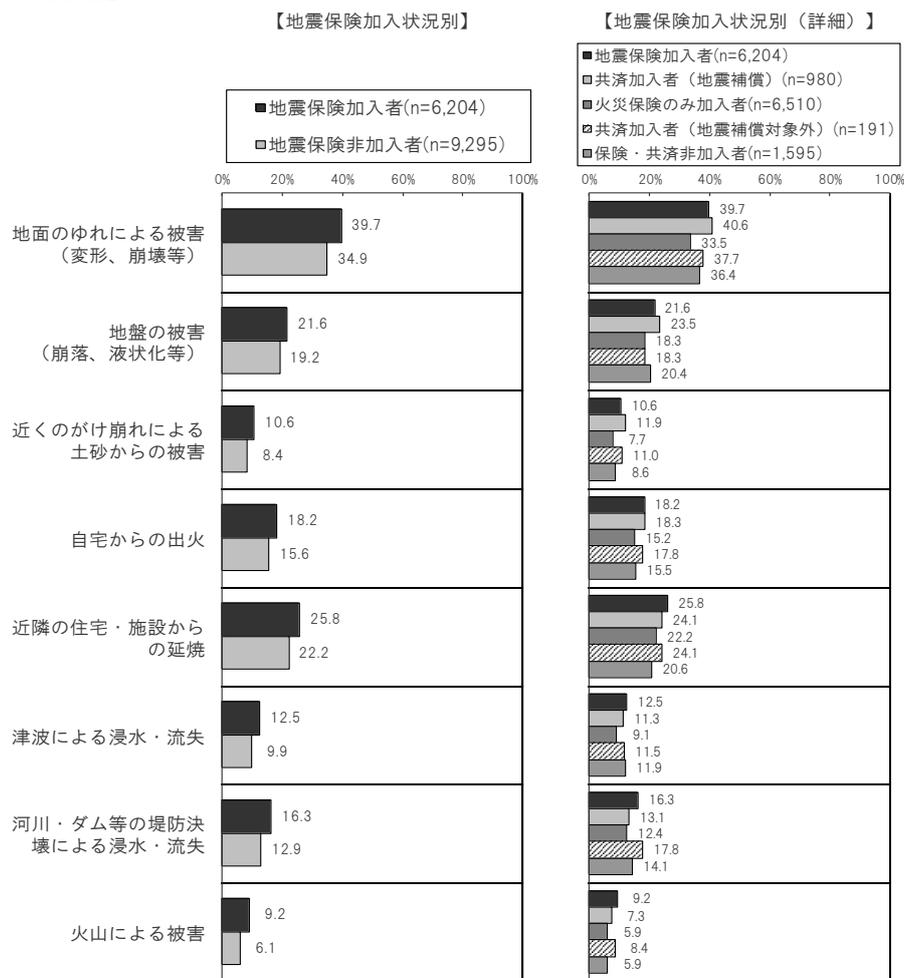
地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）では「地震により震度6弱以上の揺れに見舞われる確率は高いと思う」が36.0%となっており、他の区分をやや上回る。

(2) 地震による被害発生の可能性

① 住居建物の被害

Q60. 仮に、あなたの住んでいる地域で大地震が起こった場合に、あなたの住居建物の立地状況や、家財の地震対策状況などを考えると、どのような被害が発生すると思いますか。
(それぞれひとつずつ)

(注) 住居建物の被害について、「被害が発生する可能性が極めて高い」と「被害が発生する可能性が高い」の合計値を掲載

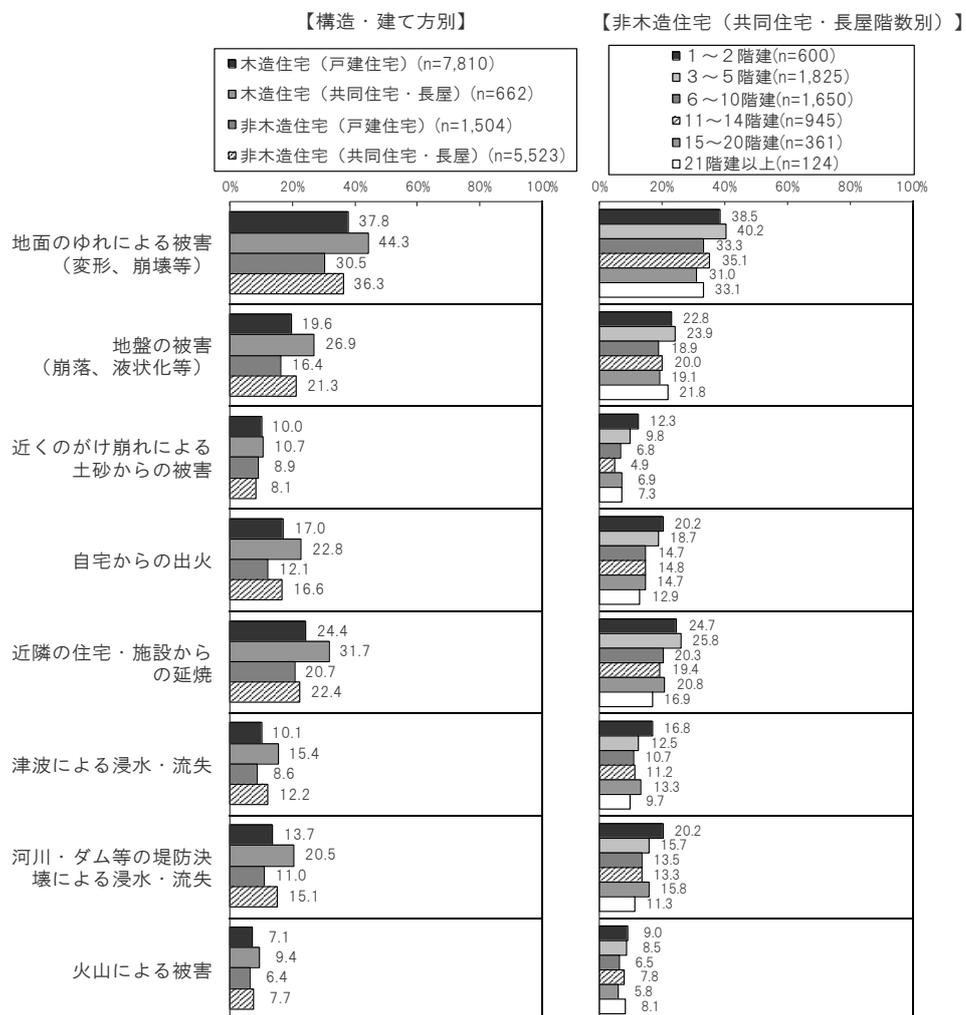


居住地域で大地震が起こった場合、『住居建物』にそれぞれの被害が発生する可能性を質問した。グラフは、「被害が発生する可能性が極めて高い」と「被害が発生する可能性が高い」の合計値を示している。

地震保険加入者・非加入者ともに「地面のゆれによる被害（変形、崩壊等）」の比率が最も高く、次いで、「近隣の住宅・施設からの延焼」「地盤の被害（崩落、液状化等）」の順となっている。いずれの被害形態も、地震保険加入者が非加入者を上回っている。

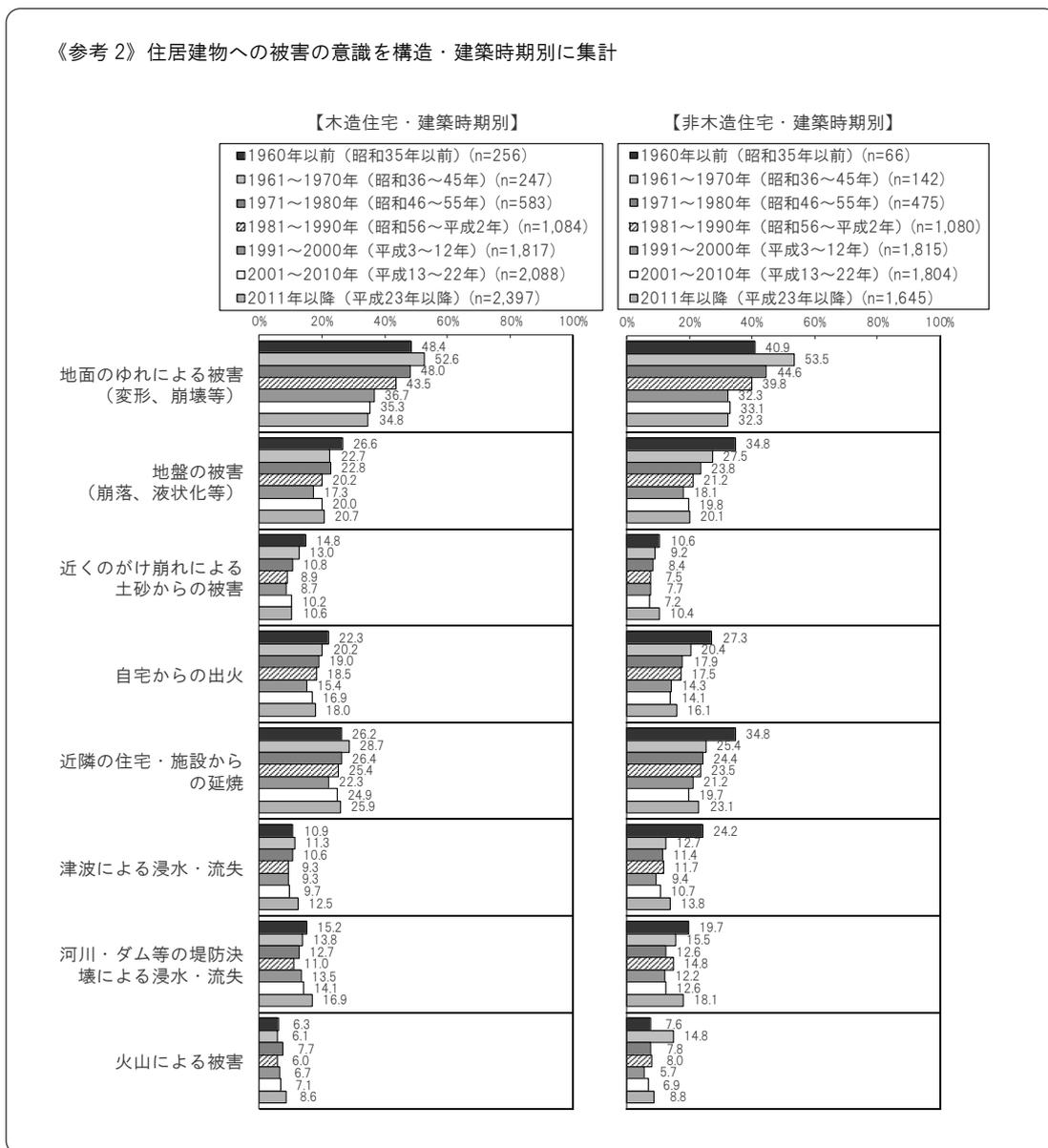
地震保険非加入者を詳細にみると、すべての区分で「地面のゆれによる被害（変形、崩壊等）」の比率が最も高い。

《参考1》住居建物への被害の意識を構造・建て方・建物階数別に集計



《参考1》は、構造・建て方・階数別の集計結果である。いずれの区分においても「地面のゆれによる被害（変形、崩壊等）」の比率が最も高い。

《参考2》住居建物への被害の意識を構造・建築時期別に集計



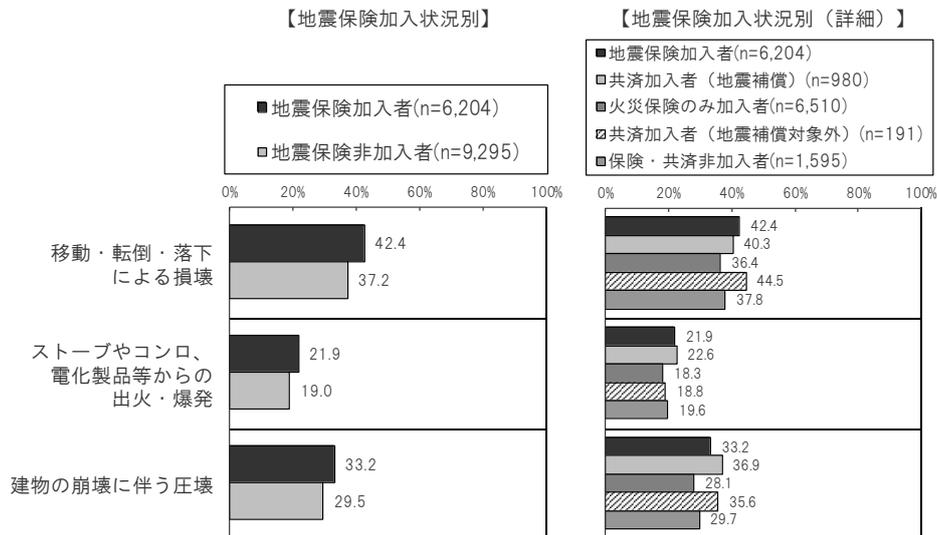
《参考2》は、構造・建築時期別の集計結果である。木造住宅、非木造住宅ともに建築時期を問わず、「地面のゆれによる被害（変形、崩壊等）」の比率が最も高いが、建築時期が新しいほど、この比率が小さい傾向がある。

② 家財の被害

Q60. 仮に、あなたの住んでいる地域で大地震が起こった場合に、あなたの住居建物の立地状況や、家財の地震対策状況などを考えると、どのような被害が発生すると思いますか。

(それぞれひとつずつ)

(注) 家財の被害について、「被害が発生する可能性が極めて高い」と「被害が発生する可能性が高い」の合計値を掲載

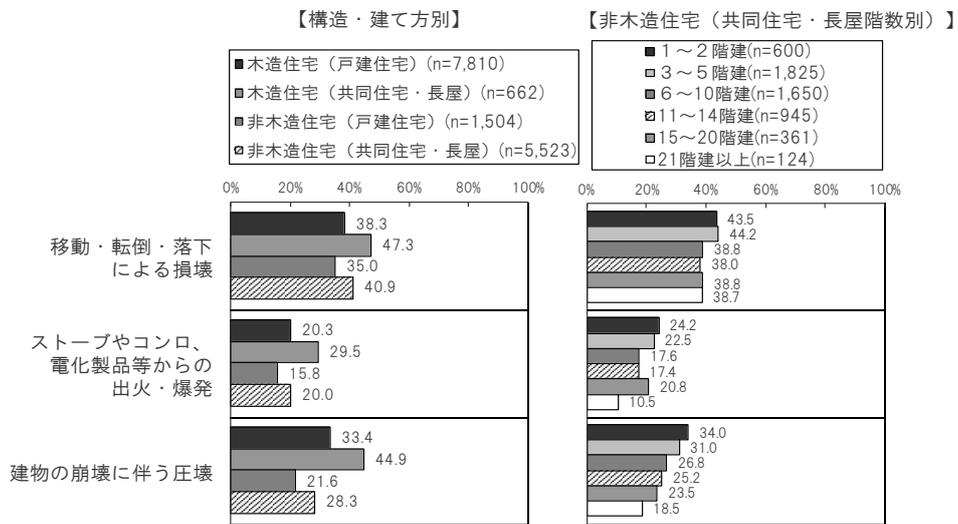


居住地域で大地震が起こった場合、『家財』にそれぞれの被害が発生する可能性を質問した。グラフは、「被害が発生する可能性が極めて高い」と「被害が発生する可能性が高い」の合計値を示している。

地震保険加入者・非加入者ともに「移動・転落・落下による損壊」の比率が最も高く、次いで、「建物の崩壊に伴う圧壊」「ストーブやコンロ、電化製品等からの出火、爆発」の順となっている。いずれの被害形態も、地震保険加入者が非加入者を上回っている。

地震保険非加入者を詳細にみると、すべての区分で「移動・転落・落下による損壊」の比率が最も高い。

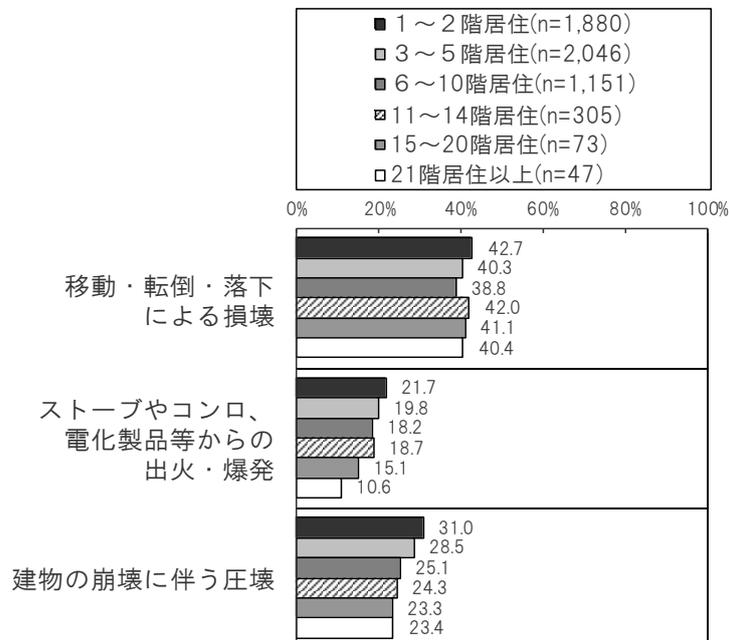
《参考1》家財への被害の意識を構造・建て方・建物階数別に集計



《参考1》は、構造・建て方・階数別の集計結果である。いずれの区分においても「移動・転倒・落下による損壊」の比率が最も高い。

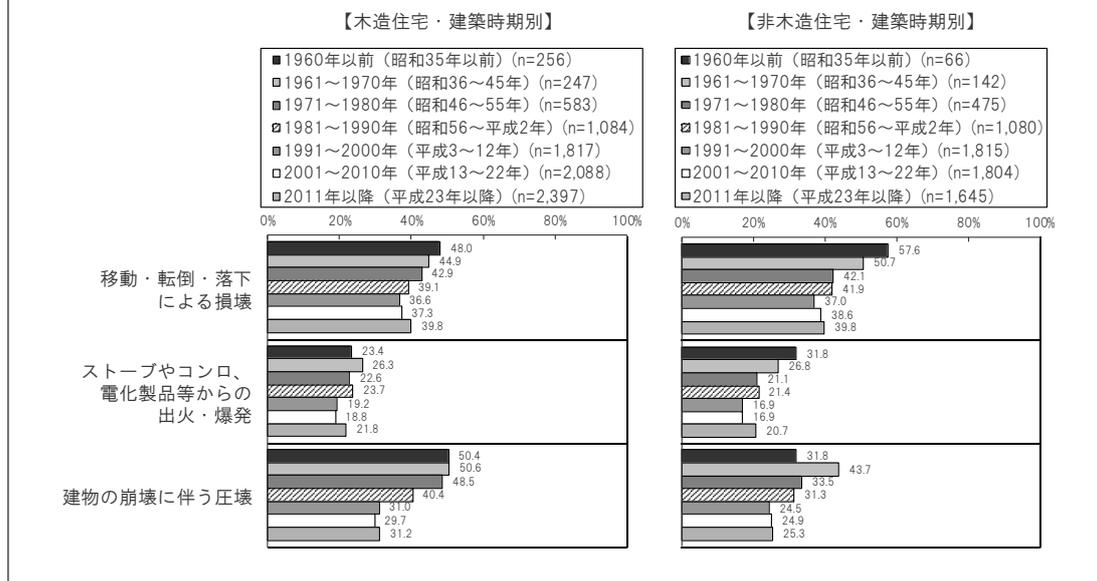
《参考2》家財への被害の意識を非木造住宅（共同住宅・長屋）の居住階数別に集計

【非木造住宅（共同住宅・長屋）の居住階数別】



《参考2》は、非木造住宅（共同住宅・長屋）の居住階数別の集計結果である。いずれの区分においても「移動・転倒・落下による損壊」の比率が最も高い。

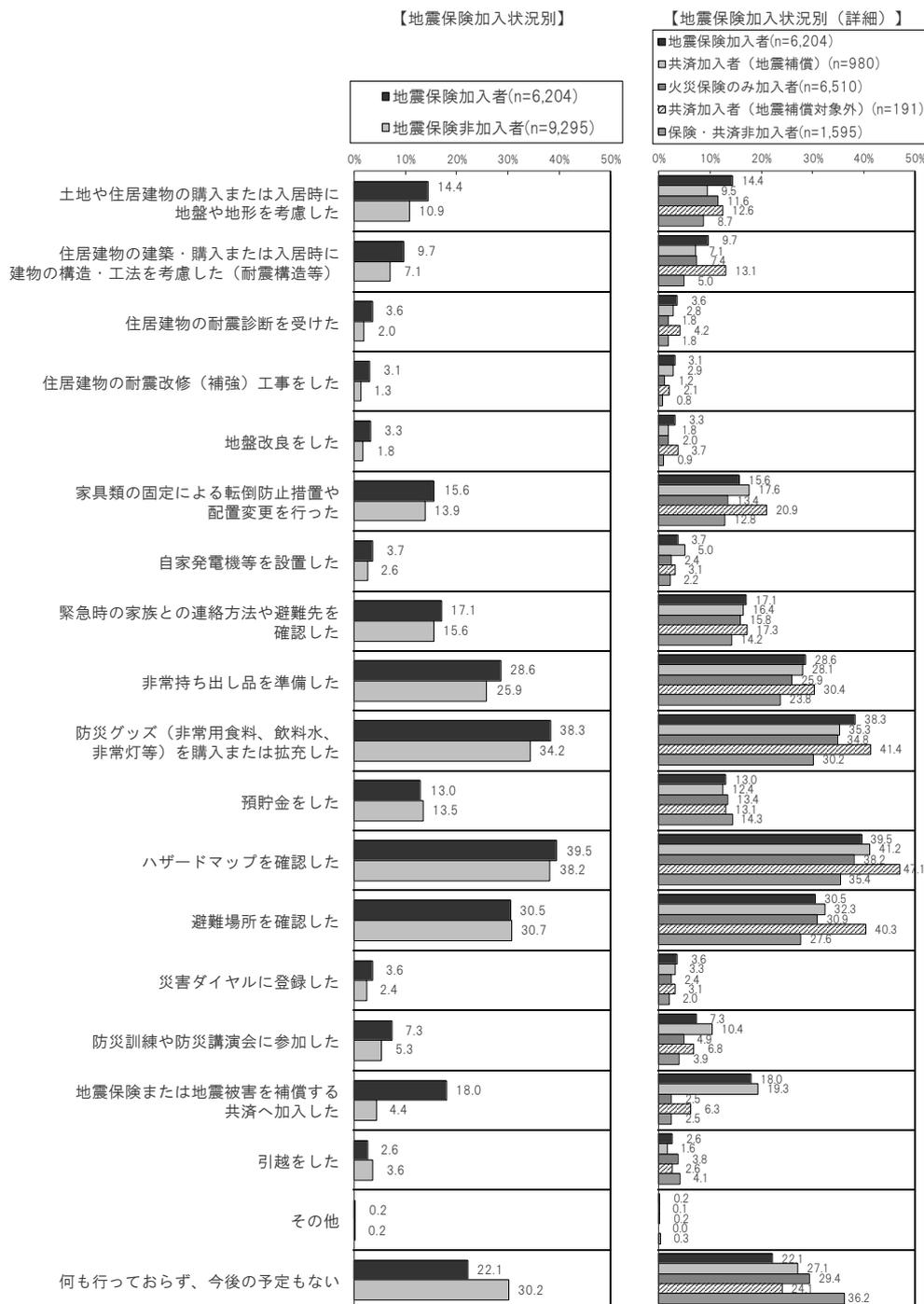
《参考3》家財への被害の意識を構造・建築時期別に集計



《参考3》は、構造・建築時期別の集計結果である。「1971~1980年（昭和46~55年）」以前の木造住宅では、「建物の崩壊に伴う圧壊」が5割程度と、他の区分を上回る。

(3) 地震危険に対する備え

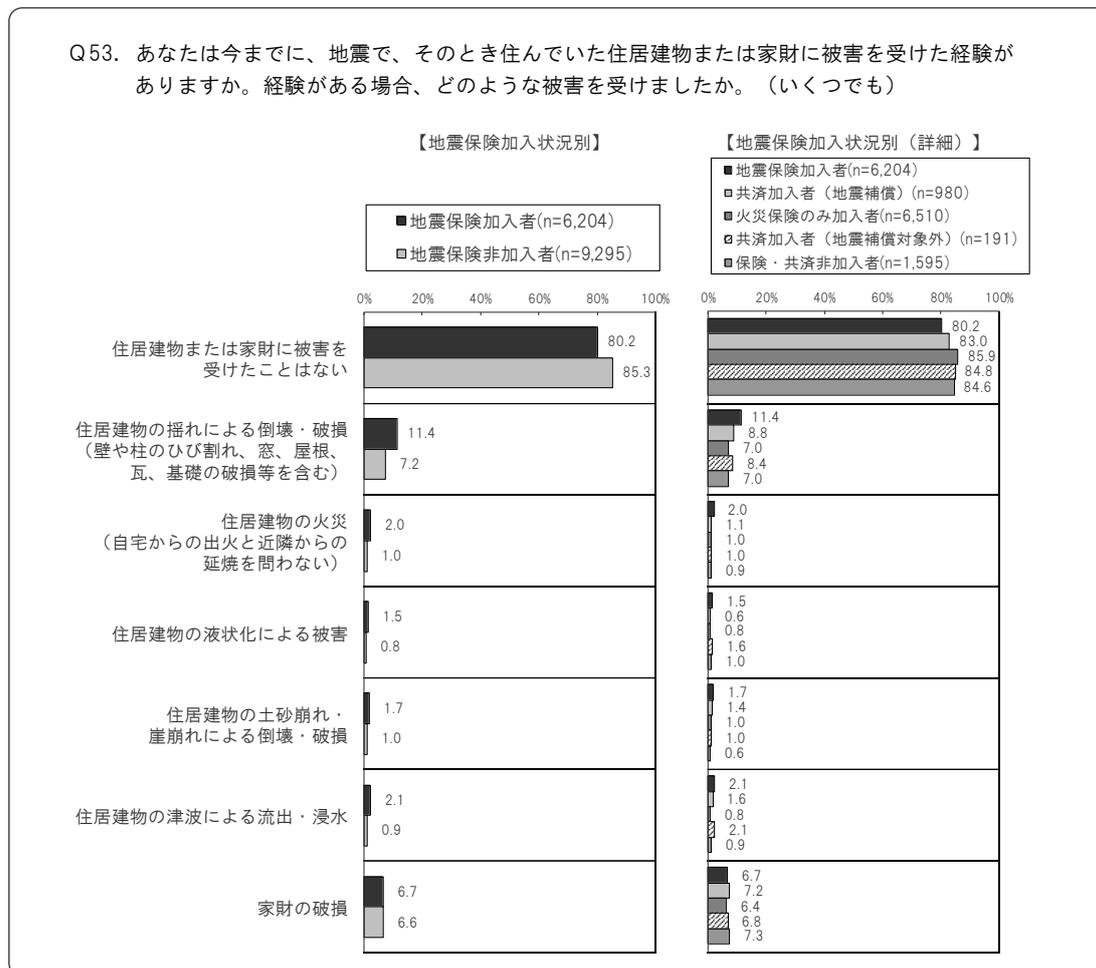
Q57. 大地震に対する備えとして、あなた（あなたの世帯）が今までに行ったこと、あるいは、現在、行っていることは何ですか。今後、予定していることも含めてお答えください。（いくつでも）



大地震に対する備えの実施状況（予定を含む）について質問した。地震保険加入者は、「ハザードマップを確認した」（39.5%）、「防災グッズ（非常用食料、飲料水、非常灯等）を購入または拡充した」（38.3%）、「避難場所を確認した」（30.5%）、「非常持ち出し品を準備した」（28.6%）など、地震に対する備えを行っている比率が地震保険非加入者に比べて高い。また、地震保険非加入者は「何も行っておらず、今後の予定もない」が30.2%で、地震保険加入者の22.1%よりも約8ポイント高い。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償対象外）は、「ハザードマップを確認した」（47.1%）、「防災グッズ（非常用食料、飲料水、非常灯等）を購入または拡充した」（41.4%）、「避難場所を確認した」（40.3%）などの項目の比率が他の区分を上回る。

(4) 被災経験の有無と被害の内容



今までに地震で何らかの被害を受けた経験があるかについて質問した。地震保険加入者・非加入者ともに「住居建物または家財に被害を受けたことはない」の比率が最も多く8割以上を占めるが、地震保険非加入者の方が約5ポイントその比率が高い。地震保険非加入者について詳細にみても傾向は同じである。

なお、保険や共済の加入状況は今回の調査時点でのものであり、被災時点の加入状況ではない点に留意する必要がある。以降の設問についても同様である。

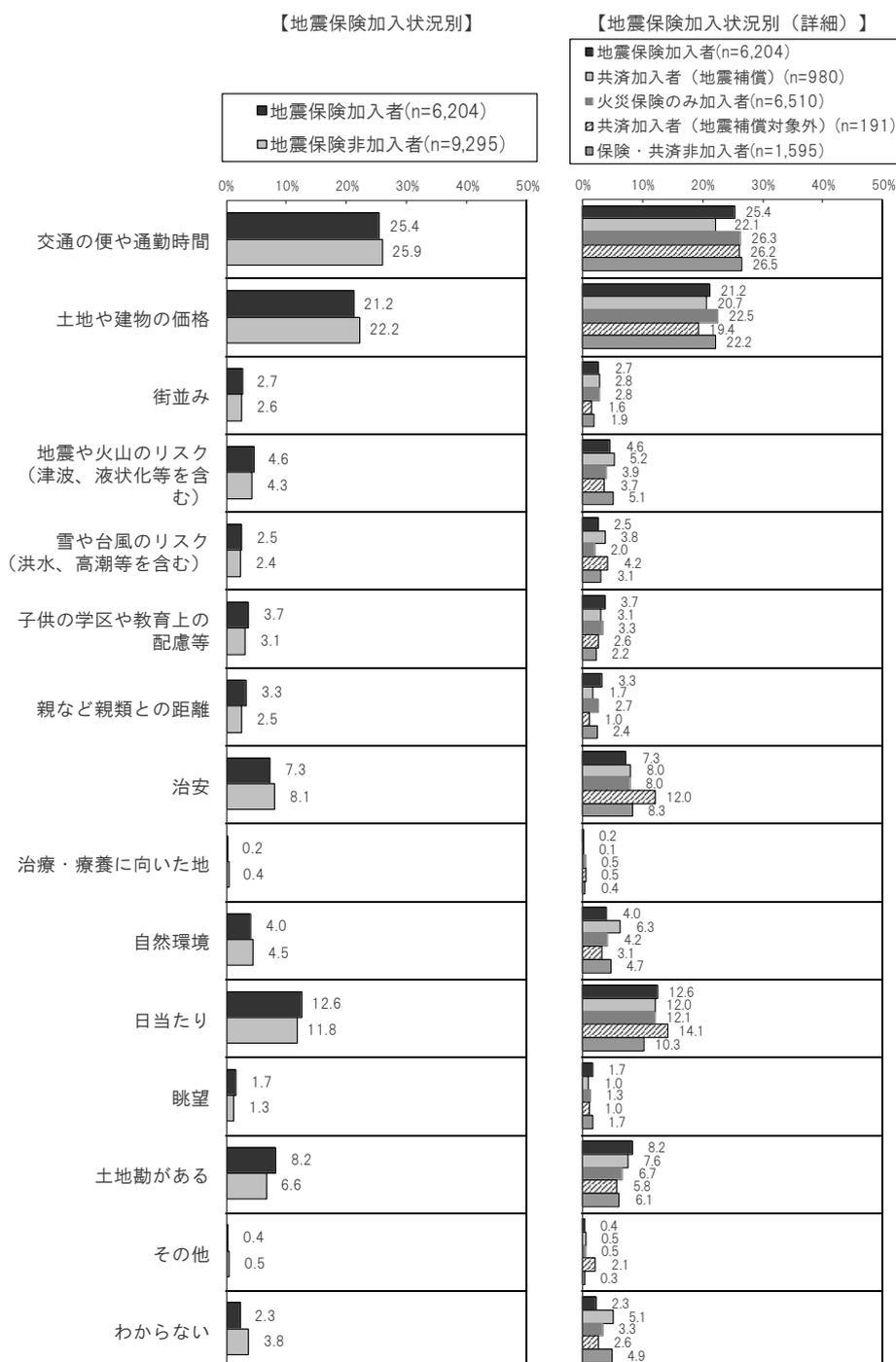
また、「被害を受けたことはない」以外の回答をした人で過去に地震保険の保険金支払を受けたことがある方に、地震保険が役立ったエピソードについて質問した(Q54.)。回答の例を以下に示す(原文ママ)。

- ・ 東日本大震災時、基礎の表面や玄関タイルにひびが入りましたが、「もっと大きな被害を受けた家がたくさん出ているので、このくらいでは対象外だろう」と思っていました。担当の営業さんから被害確認の連絡があって「保険請求してみましよう」と言ってくださり、無事に保険で修理ができました。(茨城県, 48歳)
- ・ 東日本大震災の被災地です。また、その後の福島県沖地震でも半壊や一部損の認定を受け、保険給付を受けました。地震がないのが1番ですが、加入していてよかったと思いました。(宮城県, 48歳)
- ・ 東日本大震災の時、保険会社から連絡があり、被害の調査があった。こちらから連絡していないのに調査してくれる保険会社に誠実さを感じた。(千葉県, 60歳)
- ・ 地震保険に入っていたが、どの程度で申請できるかわからず、他の人のアドバイスで申請だけしてみたら、意外と外の外壁にもヒビが入ってて見落としていた部分もあってお金より安心を買えた感じがして入ってて良かったと思った。(宮城県, 44歳)
- ・ 地震により外壁にヒビができた。問い合わせたら対象になるか調査することになった。きちんと調査していただけて、結果保険金が支給された。きちんと調査してもらえたので、納得できた。(宮城県, 58歳)
- ・ 地震保険に入るかどうか悩んだが、なんとなく加入した。その3ヶ月後に大きな地震があり、家の一部を修理することになった。あの時地震保険に入っていて良かったと思った。(大阪府, 43歳)
- ・ 地震で壁紙がはがれたり、壁にひびが入って、毎日見るたびに落ち込んでいたが、地震保険が出て、耐震補強とリフォームの足しにしたことで、地震の跡を見ることもなく、前向きに生活できるようになった。(熊本県, 59歳)
- ・ 熊本地震後すぐに支払いを受けて日常に戻れた(熊本県, 57歳)
- ・ 熊本地震の際に迅速に保険金を出してもらい、すぐに工事に着手できたので、安心しました(熊本県, 59歳)
- ・ 基礎にヒビが入ってショックだったが、保険がおりたので精神的に楽になった(福島県, 33歳)
- ・ 実際に地震の被害にあったので、修理をする時に凄く役立った。入っていなかったら大変な出費になっていたと思う(宮城県, 67歳)
- ・ 地震による家財の破損の際、保障していただき助かった。しかしながら、保険料は高く、大きい金額なので支払いが大変だと感じる。(宮城県, 59歳)

(5) 住居建物を購入する場合に優先する立地条件

Q16_1. あなたが、住居建物を購入するとした場合、立地条件として次のどれを優先しますか。
優先度の高い順に最大5つまで選んでください。(5つまで)

<回答結果より、1位に挙げた項目を掲載>



グラフは、住居建物を購入する場合に優先する立地条件のうち1位と選択された比率を示したものである。

地震保険加入者・地震保険非加入者ともに、「交通の便や通勤時間」が2割強と最も高く、これに「土地や建物の価格」が約2割で続いている。

地震保険非加入者を詳細にみても傾向は同じである。

4. 地震保険加入者への質問

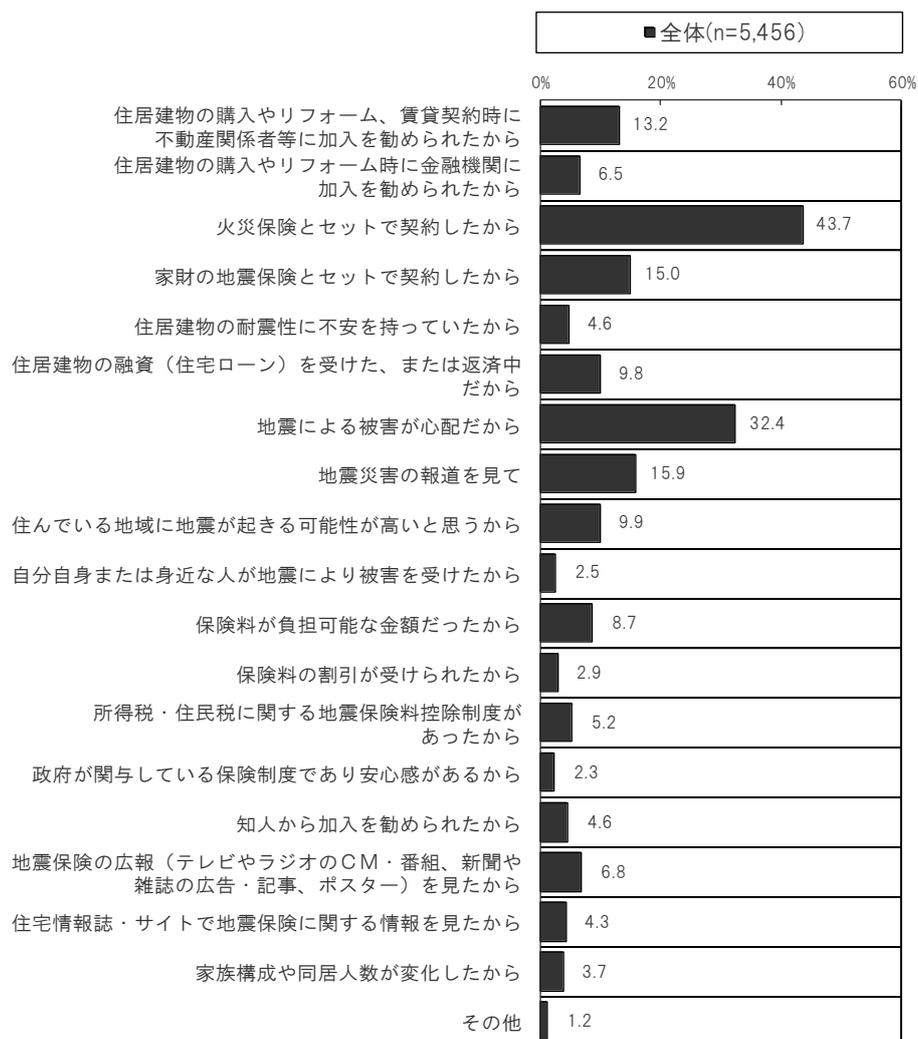
(1) 地震保険に加入した理由

① 住居建物

【Q14（「住居建物」の保険・共済加入状況）で、地震保険に加入していると回答した人に】

Q40 現在、「住居建物」を対象とした地震保険に、加入していると回答された方にお伺いします。

「住居建物」を対象とした地震保険に加入した理由（きっかけ）は何ですか。（いくつでも）



『住居建物』に対する地震保険に加入している人に、加入した理由を質問した。

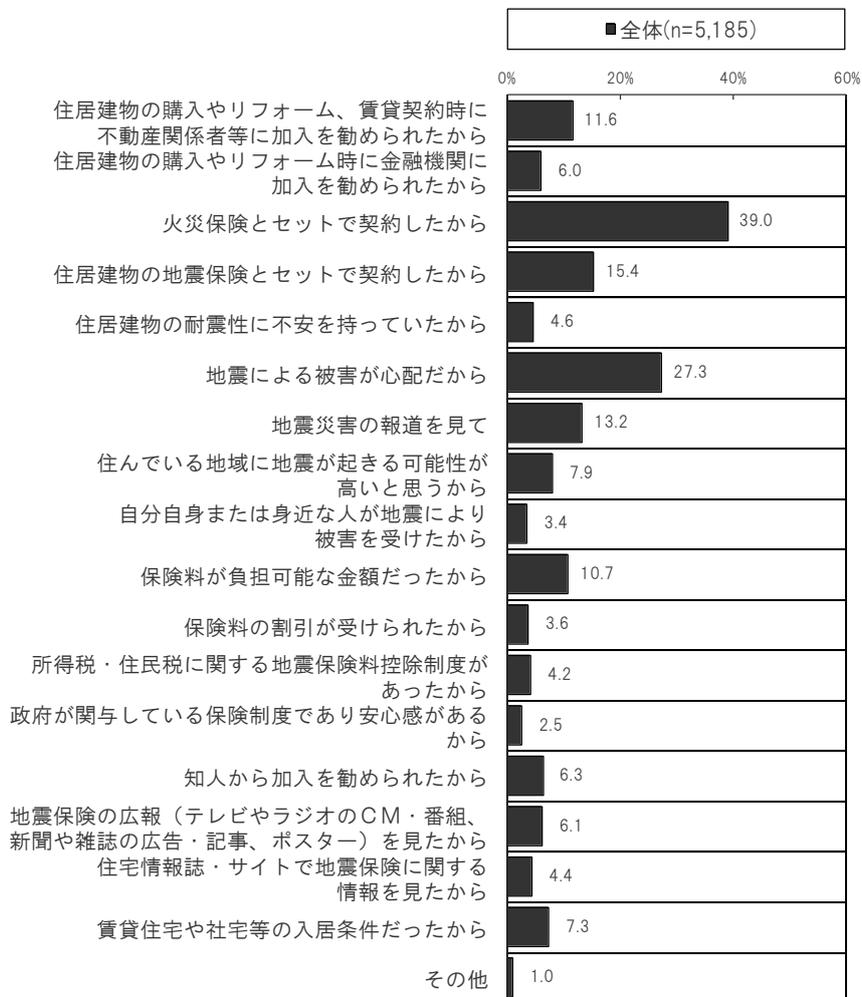
「火災保険とセットで契約したから」43.7%で最も高く、次いで、「地震による被害が心配だから」（32.4%）の順となっている。

② 家財

【Q15（「家財」の保険・共済加入状況）で、地震保険に加入していると回答した人に】

Q43. 現在、「家財」を対象とした地震保険に、加入していると回答された方にお伺いします。

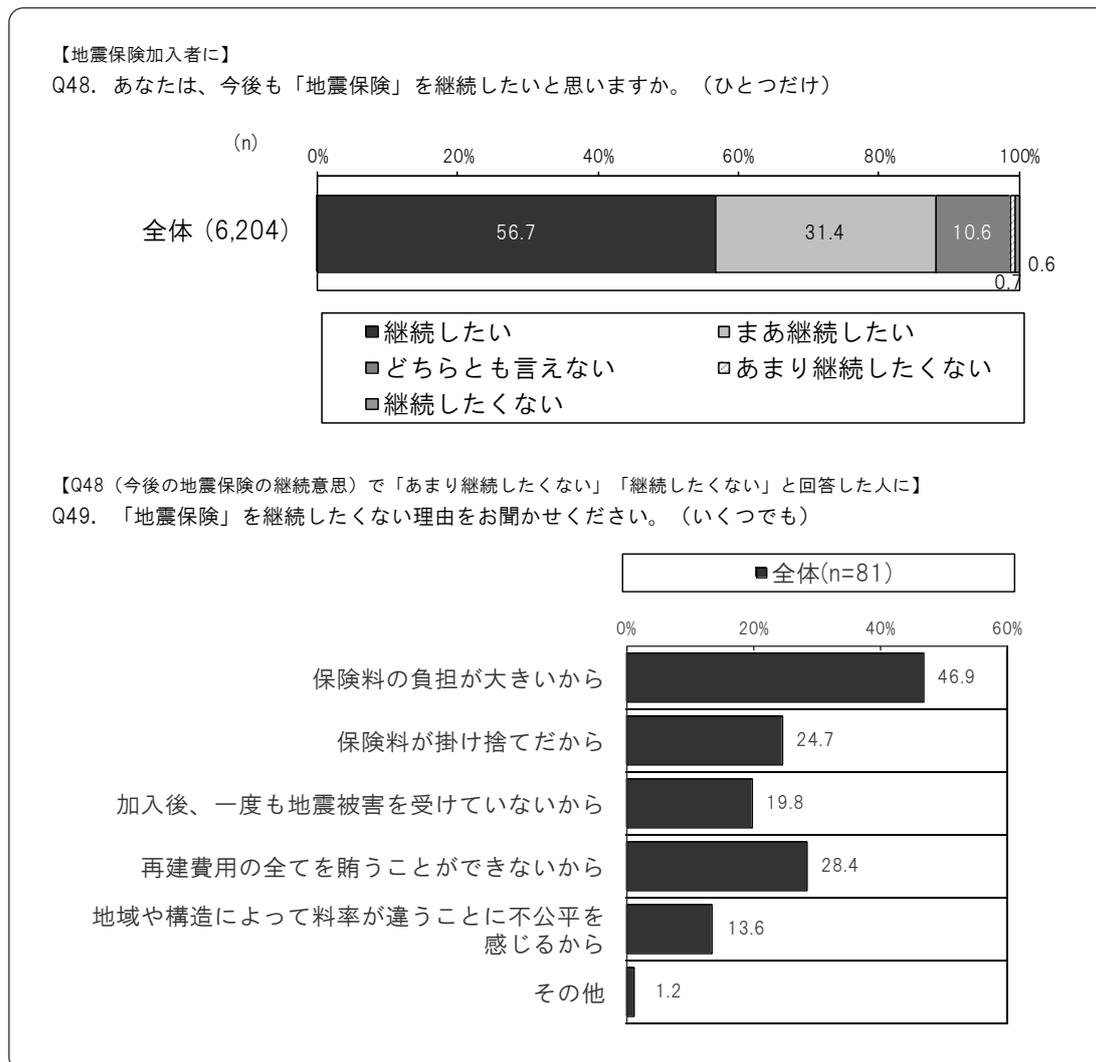
「家財」を対象とした地震保険に加入した理由（きっかけ）は何ですか。（いくつでも）



『家財』に対する地震保険に加入している人に、加入した理由を質問した。

「火災保険とセットで契約したから」の比率が39.0%と最も高く、次いで、「地震による被害が心配だから」（27.3%）の順となっている。この順番は、①『住居建物』の地震保険加入理由と同じである。

(2) 今後の地震保険の継続意思

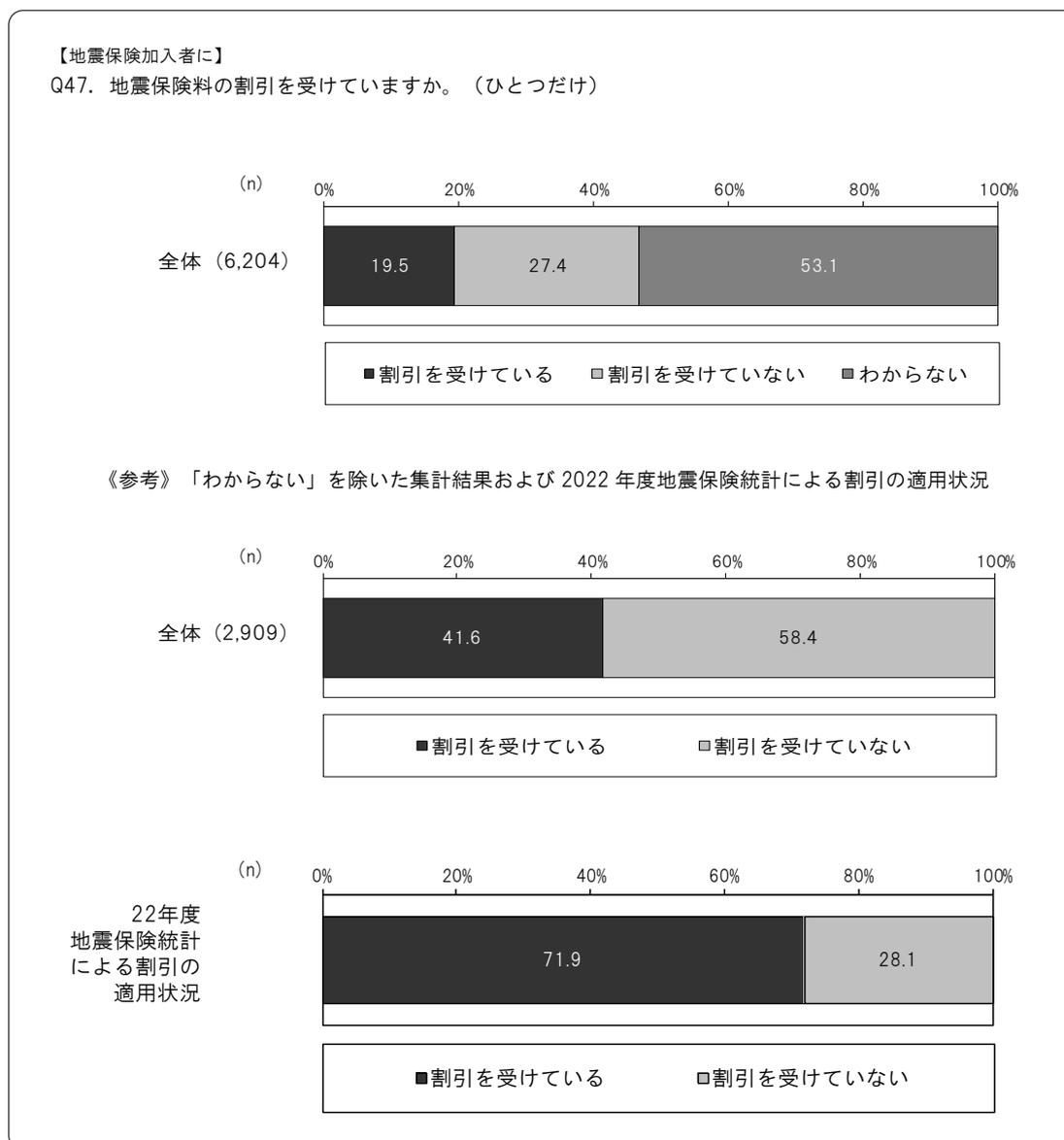


地震保険加入者に、地震保険の継続意思を質問したところ、「継続したい」の比率が56.7%と半数以上を占める。「まあ継続したい」(31.4%)と合わせた『継続したい(計)』では88.1%を占める。

一方、「継続したくない」と「あまり継続したくない」を合わせた比率は1.3%で、回答した人の理由をみると、「保険料の負担が大きいから」(46.9%)が最も高く、「再建費用のすべてを賄うことができないから」(28.4%)、「保険料が掛け捨てだから」(24.7%)の順となっている。

(3) 地震保険料の割引の適用状況

① 割引適用の有無



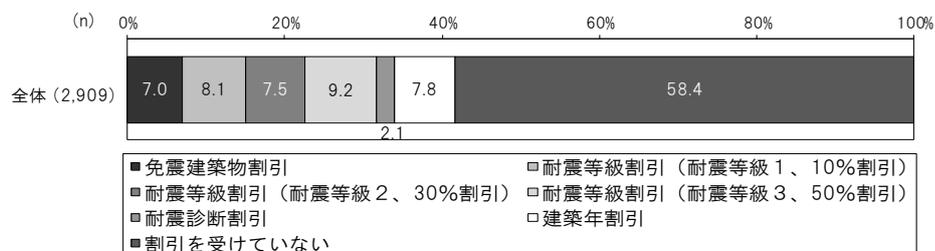
地震保険加入者に、割引の適用状況を質問したところ、「わからない」が53.1%と最も多く、「割引を受けている」は19.5%、「割引を受けていない」は27.4%となっている。

《参考》として、「わからない」を除いた集計結果と、2022年度地震保険統計による割引の適用状況を示している。本調査結果における「わからない」を除いた「割引を受けている」の比率は41.6%、「割引を受けていない」は58.4%となっている。一方で、地震保険統計における「割引を受けている」の比率は71.9%となっており、「割引を受けていない」は28.1%となっている。

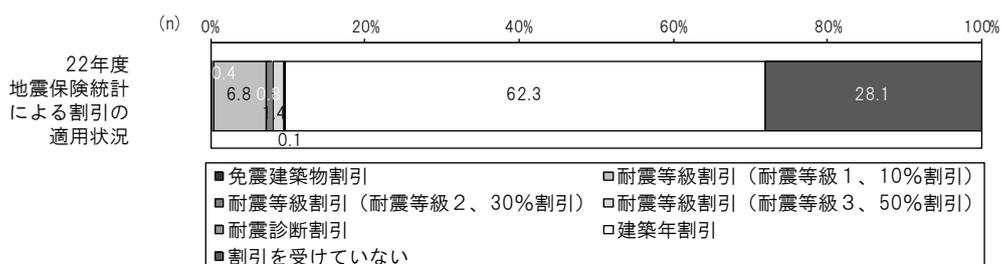
②割引適用の詳細状況（「わからない」を除き集計）

【地震保険加入者に】

Q47. 地震保険料の割引を受けていますか。（ひとつだけ）



《参考》2022年度地震保険統計による割引の適用状況



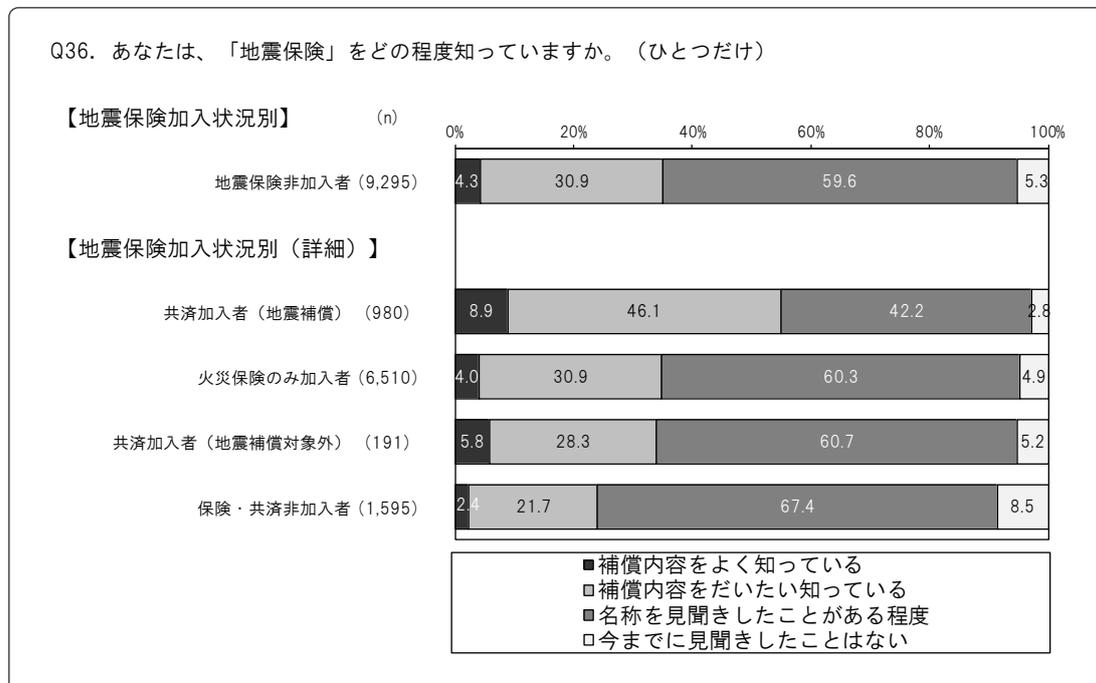
地震保険加入者における割引適用の詳細をみると、「割引を受けていない」が58.4%を占める。なお、割引を受けている人においては、「耐震等級割引（耐震等級3、50%割引）」が9.2%と最も高く、「耐震等級割引（耐震等級1、10%割引）」が8.1%で次いでいる。

《参考》として、2022年度地震保険統計による割引の適用状況を示している。地震保険統計における「建築年割引」の比率は62.3%となっているが、本調査結果における「わからない」を除いた「建築年割引」の比率は7.8%となっている。

5. 地震保険非加入者への質問

(1) 地震保険の認知度

①地震保険の認知度



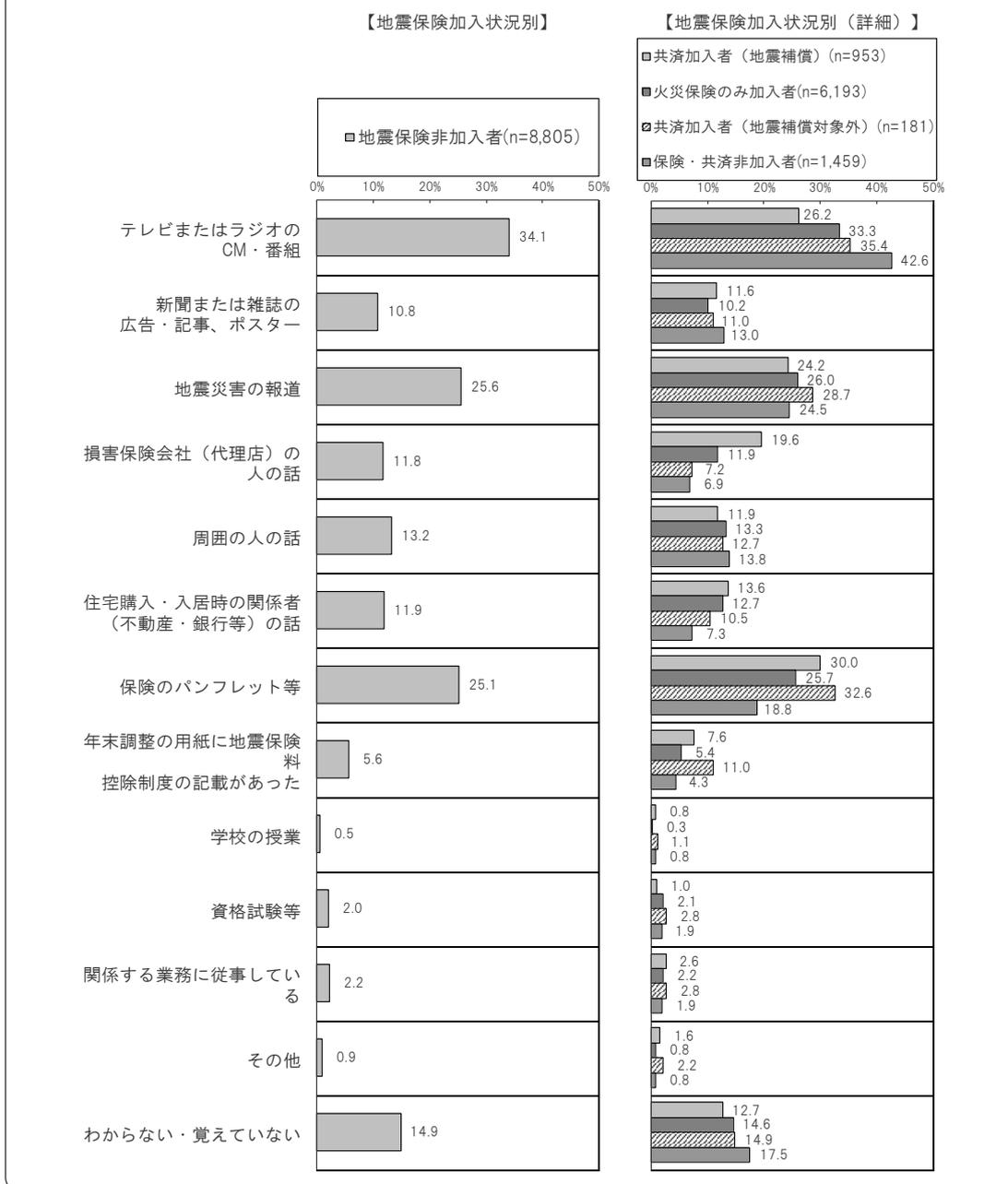
地震保険非加入者に地震保険の認知度を質問した。「名称を見聞きしたことがある程度」が59.6%で最も多く、次いで、「補償内容をだいたい知っている」が30.9%、「補償内容をよく知っている」が4.3%、「今までに見聞きしたことがない」が5.3%である。

地震保険非加入者を詳細にみると、「補償内容をよく知っている」、「補償内容をだいたい知っている」の比率は、共済加入者(地震補償)が最も高い。保険・共済非加入者は、「名称を見聞きしたことがある程度」が67.4%を占める。

② 地震保険を知ったきっかけ

【Q36（地震保険の認知度）で「補償内容をよく知っている」「補償内容をだいたい知っている」「名称を見聞きしたことがある程度」と回答した人に】

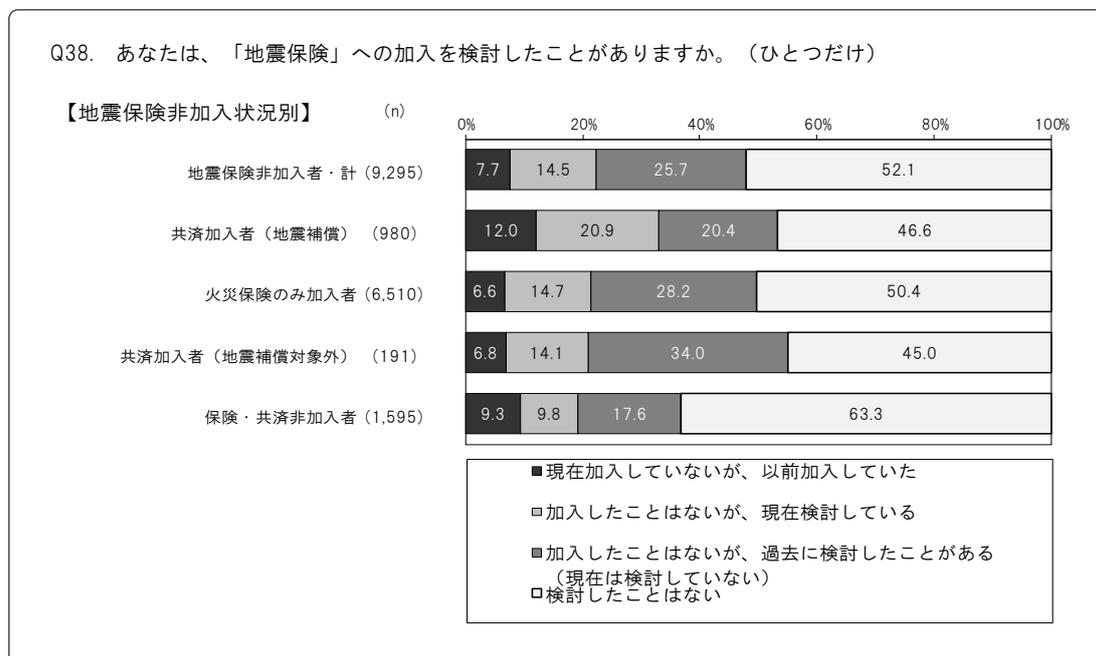
Q37. あなたが、「地震保険」を知ったきっかけは何ですか。（いくつでも）



地震保険の認知度について「補償内容をよく知っている」「補償内容をだいたい知っている」「名称を見聞きしたことがある程度」と回答した人に、地震保険を知ったきっかけについて質問した。「テレビまたはラジオのCM・番組」の比率が最も高く、「地震災害の報道」、「保険のパンフレット等」が次いでいる。

(2) 地震保険への加入検討の有無

① 地震保険への加入検討の有無



地震保険非加入者に、地震保険への加入検討の有無について質問した。

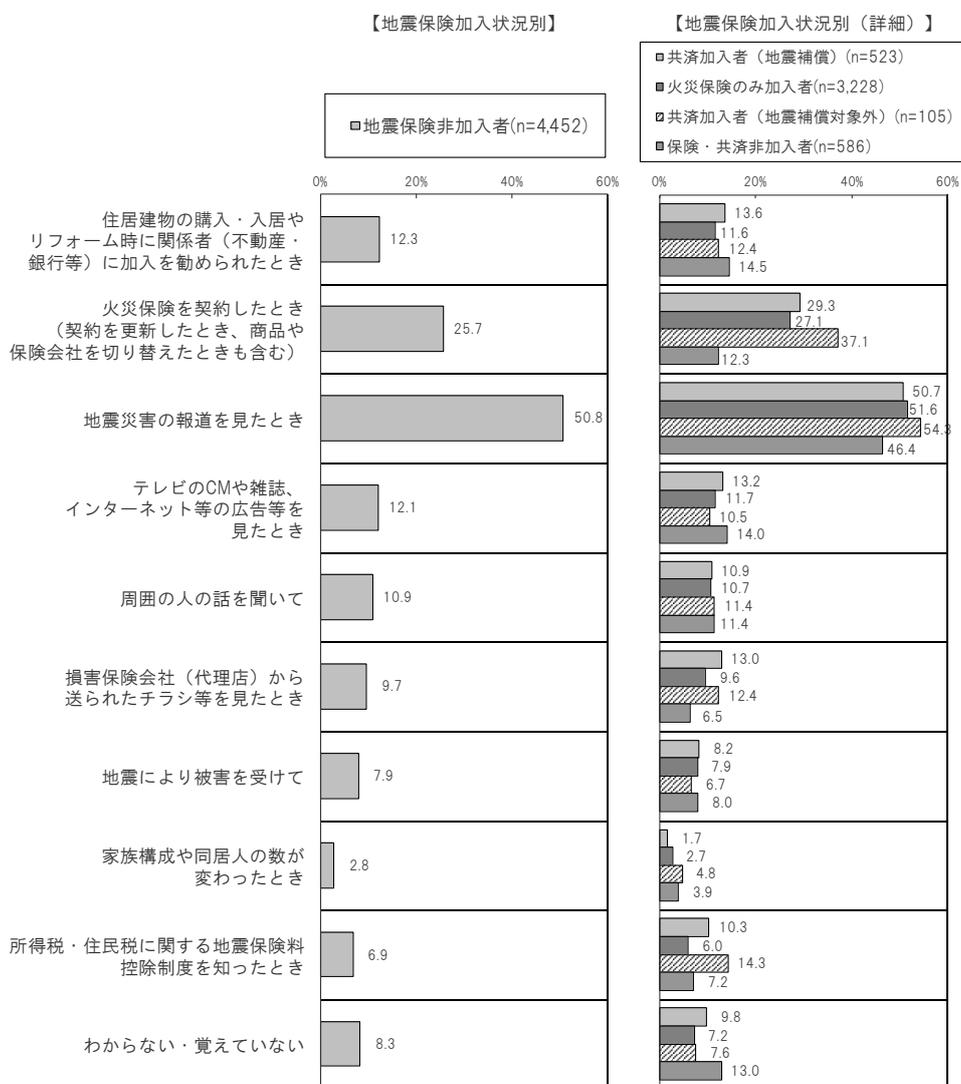
地震保険非加入者・計では、「検討したことはない」の比率が52.1%と最も高く、「加入したことはないが、過去に検討したことがある (現在は検討していない) 」 (25.7%) が次いでいる。

地震保険非加入者を詳細にみると、保険・共済非加入者では「検討したことはない」の比率が63.3%で、他の区分を大きく上回る。

② 地震保険の加入を検討した場面

【Q38（地震保険の加入検討の有無）で「現在加入している」「現在加入していないが、以前加入していた」「加入したことはないが、検討したことはある」と回答した人に】

Q39. 地震保険の加入を検討したのはどんなときでしたか。（いくつでも）



地震保険の加入検討の有無について「現在加入していないが、以前加入していた」「加入したことはないが、検討したことはある」と回答した人に、地震保険の加入を検討した場面を質問した。

いずれの区分も「地震災害の報道を見たとき」の比率が最も高く、「火災保険を契約したとき（契約を更新したとき、商品や保険会社を切り替えたときも含む）」が次いでいる。

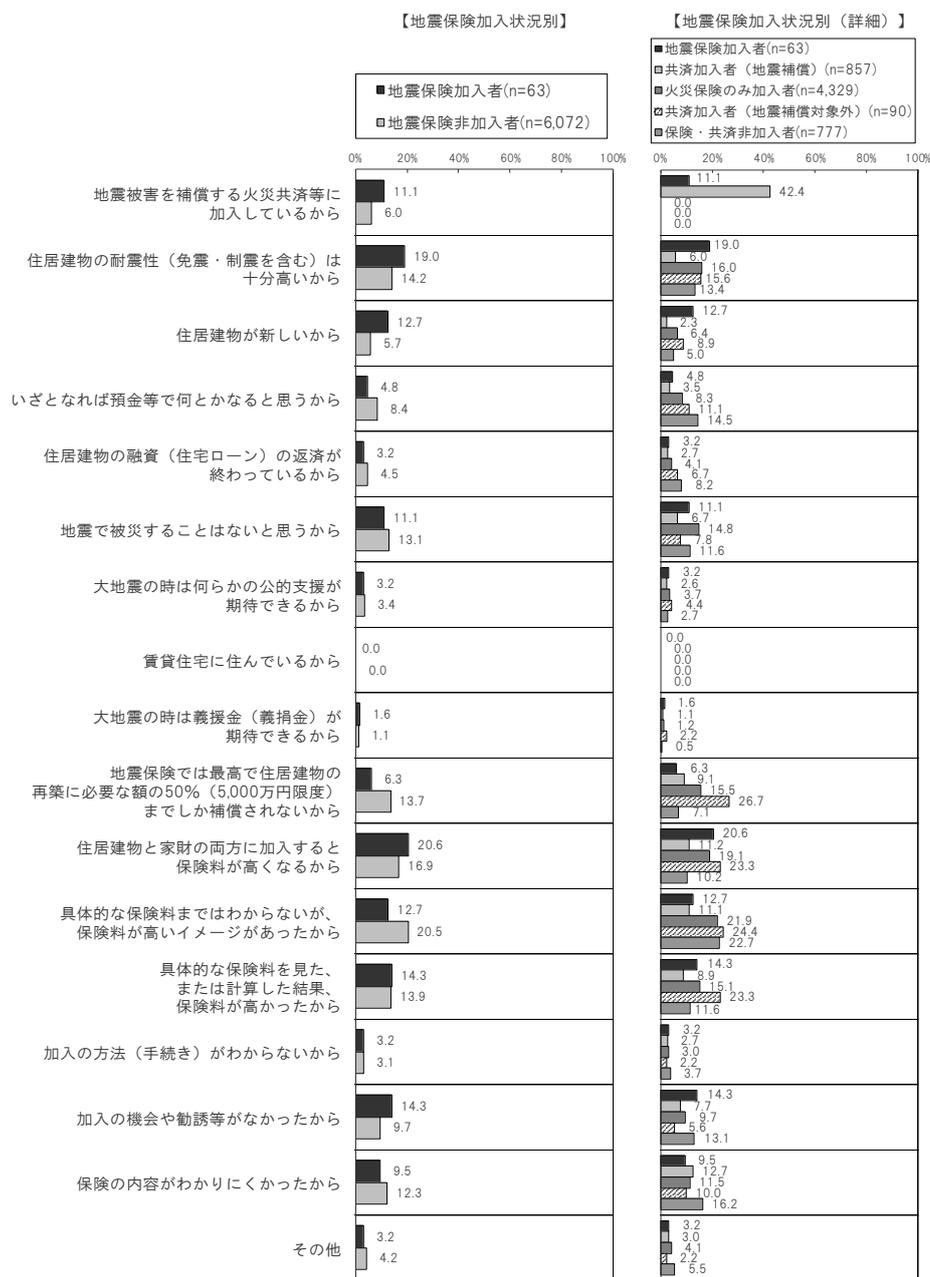
(3) 地震保険に加入していない理由

① 住居建物

【Q14（「住居建物」の保険・共済加入状況）で、地震保険に加入していないと回答した人に】

Q41. 現在、「住居建物」を対象とした地震保険に、加入していないと回答された方にお伺いします。

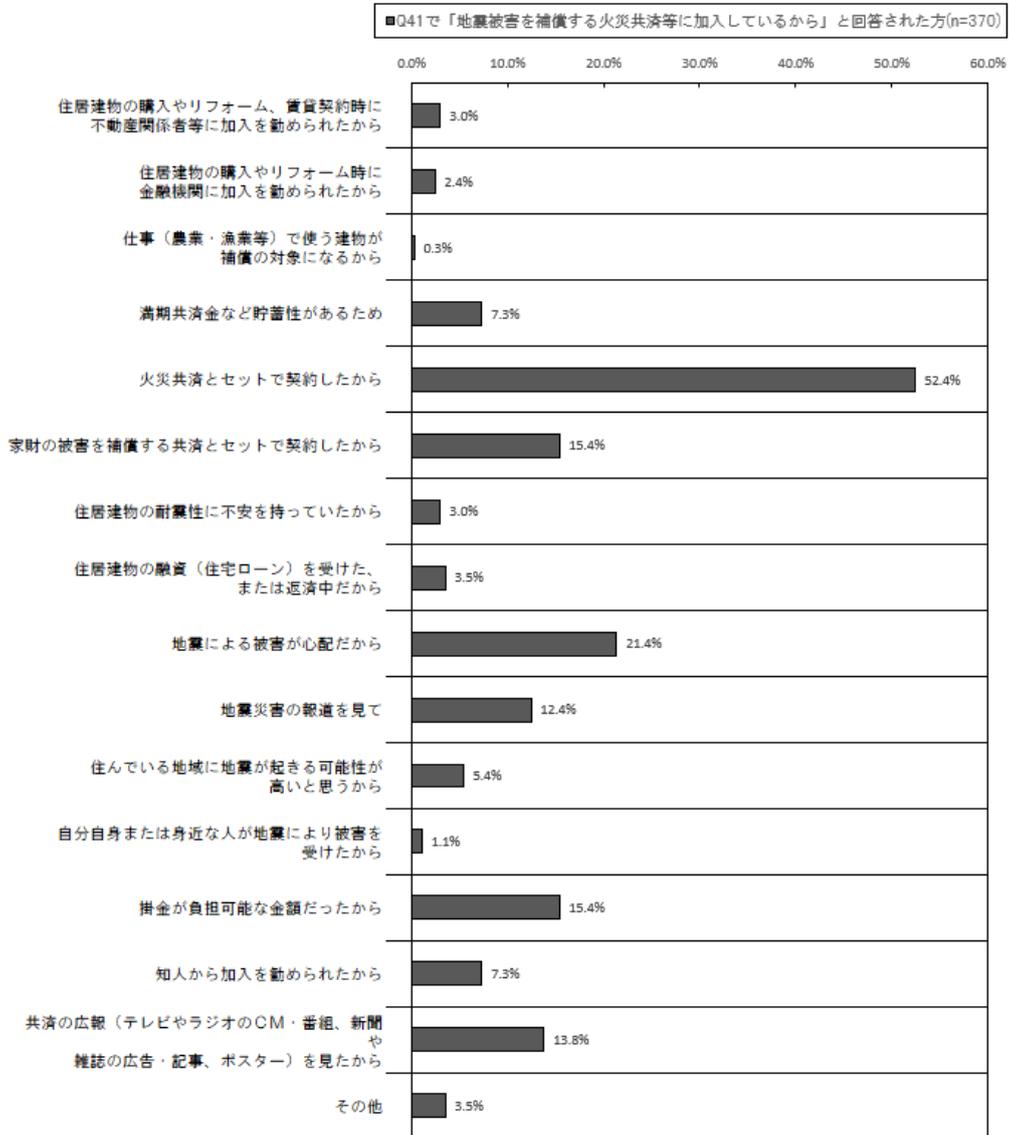
「住居建物」を対象とした地震保険に加入していない理由は何ですか。（いくつでも）



『住居建物』に対する地震保険に加入していない人に、地震保険に加入していない理由を質問した。

地震保険加入者（『家財』に対する地震保険のみ加入者）では「住居建物と家財の両方に加入すると保険料が高くなるから」が20.6%と最も高い。地震保険非加入者においては、「具体的な保険料まではわからないが、保険料が高いイメージがあったから」が20.5%と最も高い。

【Q41（現在、「住居建物」を対象とした地震保険に、加入していないと回答された方にお伺いします。「住居建物」を対象とした地震保険に加入していない理由は何ですか。（いくつでも）で、「地震被害を補償する火災共済等」に加入しているから」と回答した人に】
 Q42. 「地震被害を補償する火災共済等」に加入した理由（きっかけ）は何ですか。（いくつでも）



また、「地震被害を補償する火災共済等」に加入しているから」と回答した人に、「地震被害を補償する火災共済等」に加入した理由を質問した。

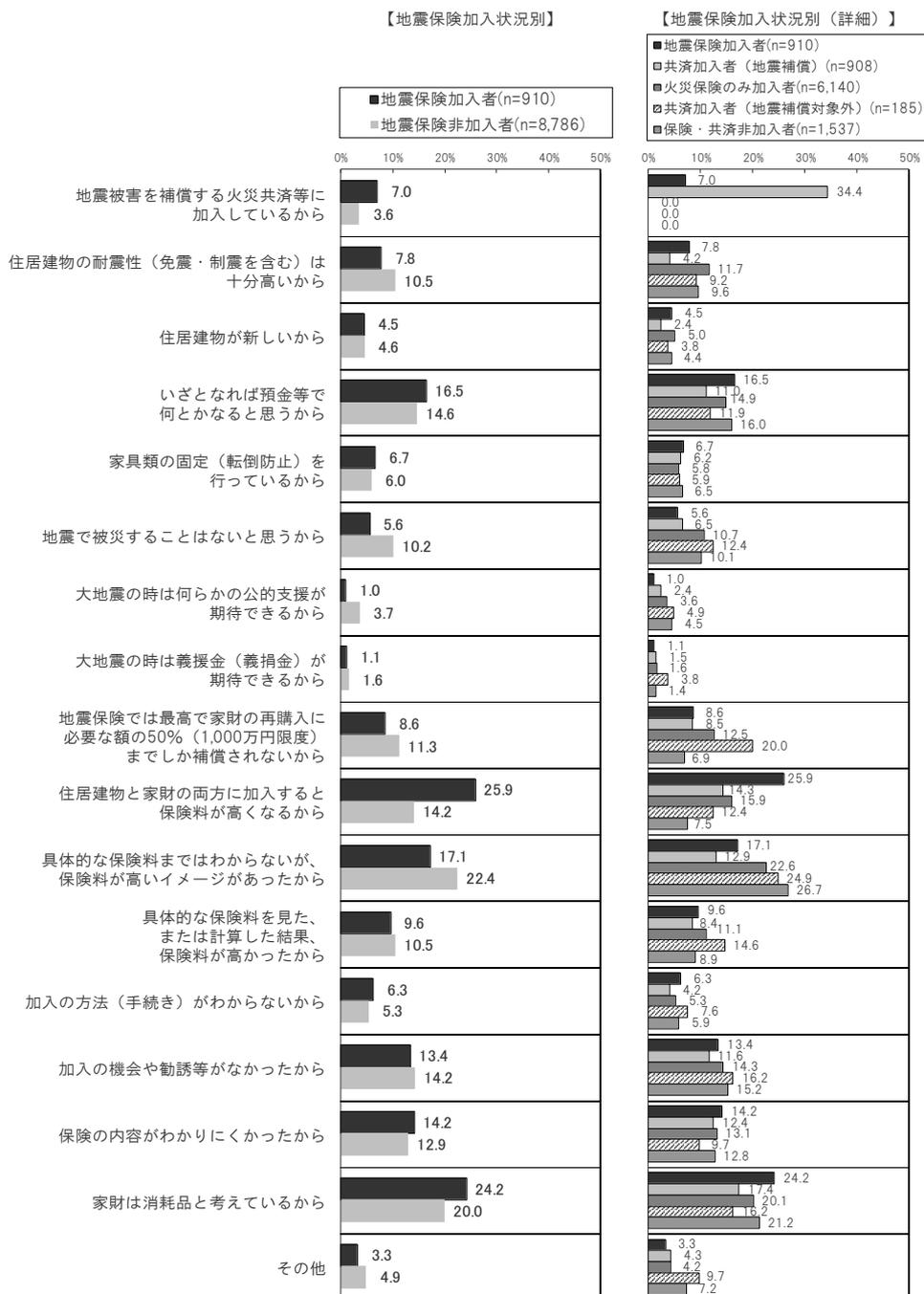
「火災共済とセットで契約したから」が 52.4%と最も高い。

② 家財

【Q15（「家財」の保険・共済加入状況）で、地震保険に加入していないと回答した人に】

Q44. 現在、「家財」を対象とした地震保険に、加入していないと回答された方にお伺いします。

「家財」の地震保険に加入していない理由は何ですか。（いくつでも）



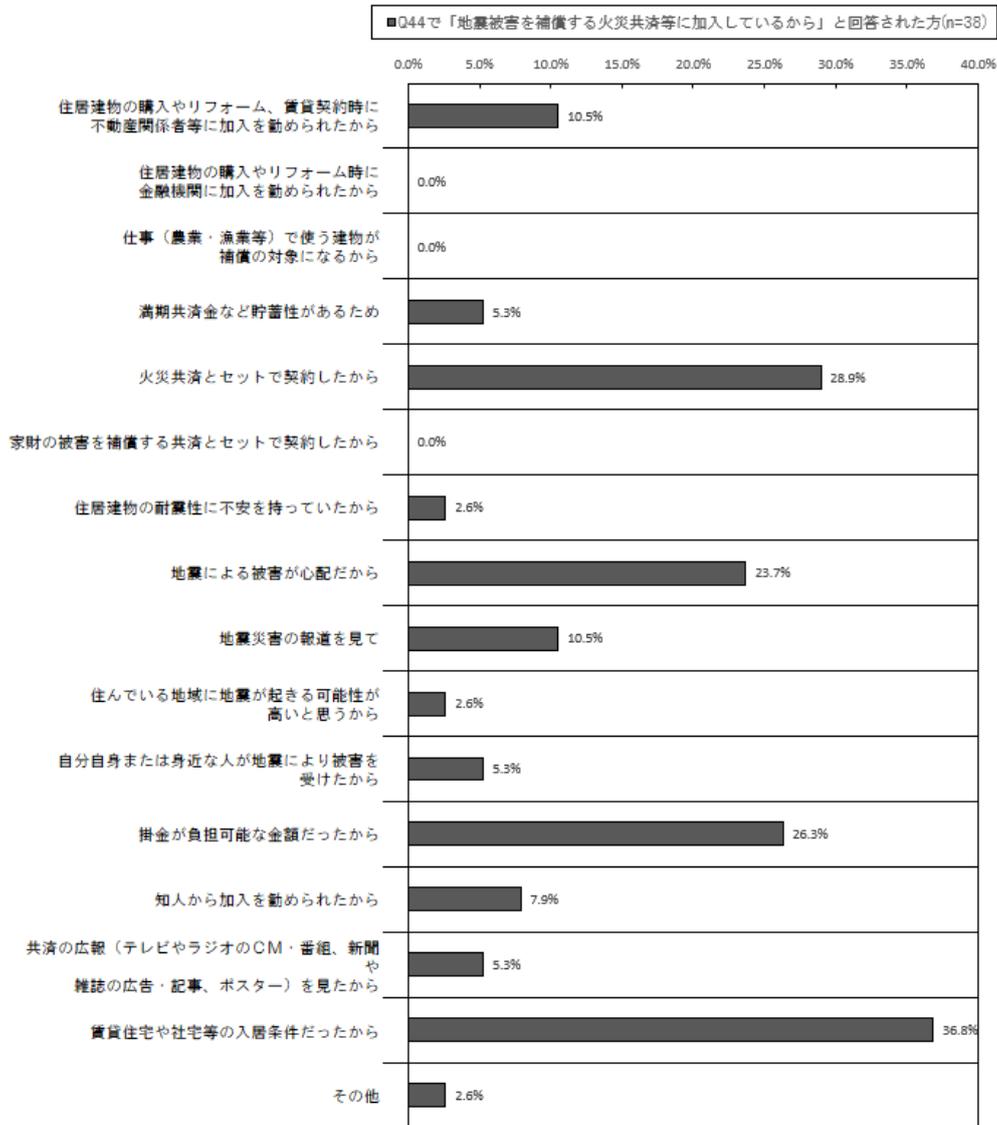
『家財』に対する地震保険に加入していない人に、地震保険に加入していない理由を質問した。

地震保険加入者（『住居』に対する地震保険のみ加入者）では「住居建物と家財の両方に加入すると保険料が高くなるから」が25.9%と最も高い。地震保険非加入者においては、「具体的な保険料まではわからないが、保険料が高いイメージがあったから」が22.4%と最も高い。また、地震保険加入者（『住居』に対する地震保険のみ加入者）・非加入者ともに、「家財は消耗品と考えているから」が高い結果となった。

【Q44（現在、「家財」を対象とした地震保険に、加入していないと回答された方にお伺いします。「家財」を対象とした地震保険に加入していない理由は何ですか。（いくつでも）で、

「地震被害を補償する火災共済等に参加しているから」と回答した人に】

Q45. 「地震被害を補償する火災共済等」に参加した理由（きっかけ）は何ですか。（いくつでも）



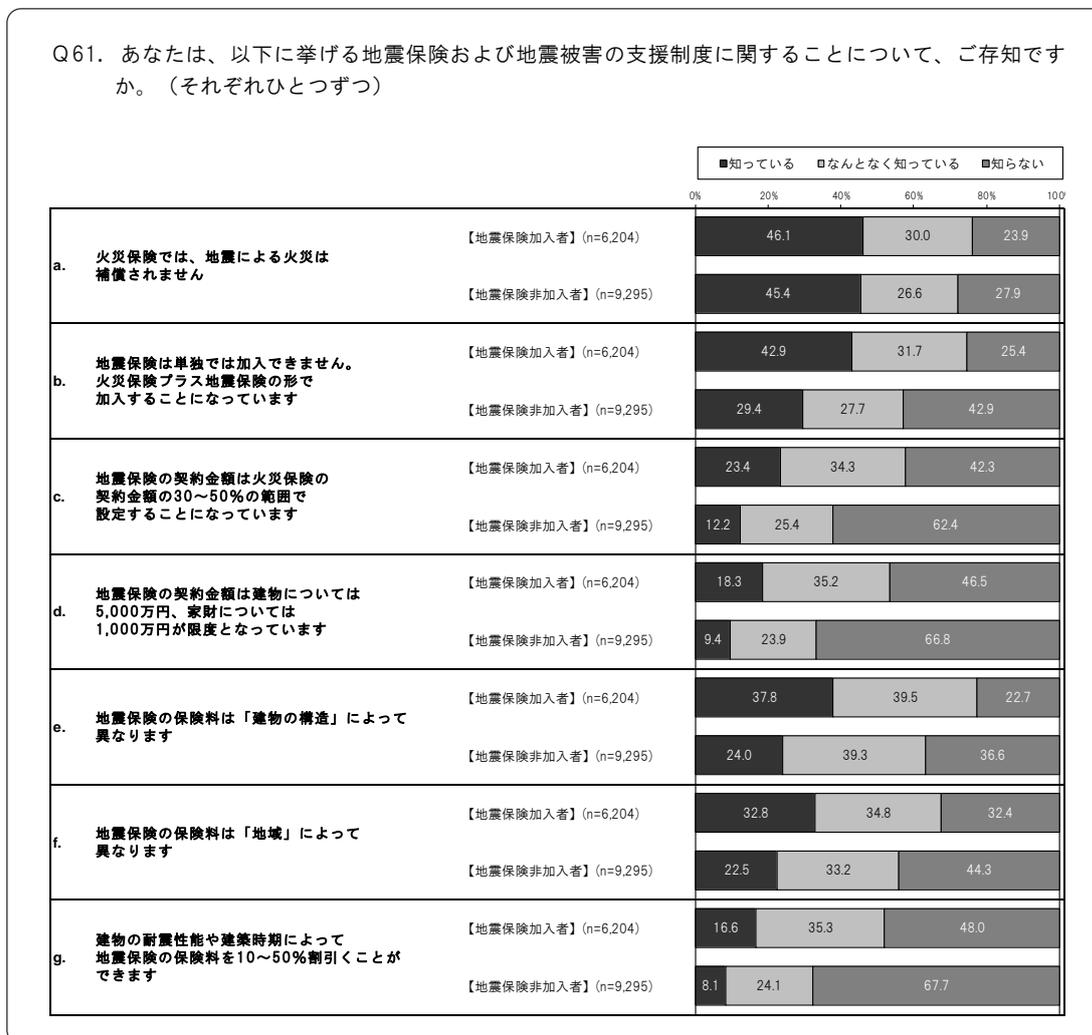
また、「地震被害を補償する火災共済等に参加しているから」と回答した人に、「地震被害を補償する火災共済等」に参加した理由を質問した。

「賃貸住宅や社宅等の入居条件だったから」が36.8%と最も高い。

6. 地震保険制度・地震保険料に対する意識

(1) 制度内容等の認知度

<項目 (a) ~ (g) について>



地震保険および地震被害の支援制度に関する各制度内容（a~gの各項目）の認知状況については、下記の通り。

<a. 火災保険では地震による火災は補償されない>ことについて、「知っている」「なんとなく知っている」を合わせた『知っている（計）』は、地震保険加入者は76.1%（=46.1%+30.0%）、非加入者は72.0%（=45.4%+26.6%）となっている。なお、他の項目と比べると、認知度が高い。

<b. 地震保険は単独では加入できない>ことについて、『知っている（計）』は、地震保険加入者は74.6%（=42.9%+31.7%）、非加入者は57.1%（=29.4%+27.7%）となっており、認知度に約18ポイントの差がある。

<c. 地震保険の契約金額は火災保険の契約金額の30~50%の範囲で設定する>ことについて、『知っている（計）』は、地震保険加入者は57.7%（=23.4%+34.3%）、非加入

者は37.6% (=12.2%+25.4%) となっており、認知度に約20ポイントの差がある。

<d. 地震保険の契約金額の限度額>について、『知っている(計)』は、地震保険加入者は53.5% (=18.3%+35.2%)、非加入者は33.3% (=9.4%+23.9%) となっており、認知度に20ポイントの差がある。

<e. 保険料は建物の構造によって異なる>ことについて、『知っている(計)』は、地震保険加入者は77.3% (=37.8%+39.5%)、非加入者は63.3% (=24.0%+39.3%) となっており、認知度に約14ポイントの差がある。

<f. 保険料は地域によって異なる>ことについて、『知っている(計)』は、地震保険加入者は67.6% (=32.8%+34.8%)、非加入者は55.7% (=22.5%+33.2%) となっており、認知度に約12ポイントの差がある。

<g. 建物の耐震性能や建築時期によって保険料の割引が可能となる>ことについて、『知っている(計)』は、地震保険加入者は51.9% (=16.6%+35.3%)、非加入者は32.2% (=8.1%+24.1%) となっており、認知度に約20ポイントの差がある。

<項目 (h) ~ (n) について>

Q 61. あなたは、以下に挙げる地震保険および地震被害の支援制度に関することについて、ご存知ですか。(それぞれひとつずつ)

		■知っている	□なんとなく知っている	■知らない			
		0%	20%	40%	60%	80%	100%
h.	保険金は、迅速な支払いのため、全損、大半損、小半損、一部損の4区分で支払われます	【地震保険加入者】(n=6,204)	18.0	40.6	41.4		
		【地震保険非加入者】(n=9,295)	9.3	30.9	59.8		
i.	地震保険の損害の判定は、建物の主要構造部(基礎、柱、はり、屋根、外壁など)の損害の大きさで判定されます	【地震保険加入者】(n=6,204)	19.1	42.2	38.7		
		【地震保険非加入者】(n=9,295)	10.8	34.7	54.5		
j.	地震保険は、「地震保険に関する法律」などに基づいて、政府と民間保険会社が協力して制度運営している保険制度です	【地震保険加入者】(n=6,204)	16.3	33.6	50.1		
		【地震保険非加入者】(n=9,295)	7.6	23.9	68.5		
k.	地震保険の保険料(料率)は、「地震保険に関する法律」に基づいて、できる限り低い水準に設定されており、保険会社の利潤は含まれていません	【地震保険加入者】(n=6,204)	13.2	28.4	58.4		
		【地震保険非加入者】(n=9,295)	6.1	18.6	75.3		
l.	2006年度分以降の所得税(個人住民税は2008年度分以降)から、地震保険料控除制度が実施され、最高で5万円(個人住民税は2万5千円)の控除が受けられます	【地震保険加入者】(n=6,204)	23.1	32.2	44.8		
		【地震保険非加入者】(n=9,295)	10.5	23.6	65.9		
m.	地震等の自然災害により著しい被害を受けた世帯に対し支援金を支給する「被災者生活再建支援制度」(「被災者生活再建支援法」に基づく国の制度)があります	【地震保険加入者】(n=6,204)	15.0	41.5	43.4		
		【地震保険非加入者】(n=9,295)	8.9	36.7	54.4		
n.	災害救助法適用の自然災害(政府によって被災災害に指定された災害)で被災した場合、「被災ローン減免制度(自然災害による被災者の債務整理に関するガイドライン)」を利用することで、住宅ローンなどの借金を抱えた債務者は、債権者との合意に基づき、自己破産や民事再生などの法的な債務整理によらずに借金を整理することができます	【地震保険加入者】(n=6,204)	11.3	36.1	52.6		
		【地震保険非加入者】(n=9,295)	5.8	28.6	65.6		

地震保険および地震被害の支援制度に関する各制度内容(h~nの各項目)の認知状況については、下記の通り。

<h. 保険金は、全損、大半損、小半損、一部損の4区分で支払われる>ことについて、『知っている(計)』は、地震保険加入者は58.6%(=18.0%+40.6%)、非加入者は40.2%(=9.3%+30.9%)となっており、認知度に約18ポイントの差がある。

<i. 損害の判定は、建物の主要構造部の損害の大きさで判定される>ことについて、『知っている(計)』は、地震保険加入者は61.3%(=19.1%+42.2%)、非加入者は45.5%(=10.8%+34.7%)となっており、認知度に約16ポイントの差がある。

<j. 地震保険は政府と民間保険会社が協力して制度運営している>ことについて、『知っている(計)』は、地震保険加入者は49.9%(=16.3%+33.6%)、非加入者は31.5%(=7.6%+23.9%)となっており、認知度に約18ポイントの差がある。

<k. 保険料率に保険会社の利潤は含まれていない>ことについて、『知っている(計)』は、地震保険加入者は41.6%(=13.2%+28.4%)、非加入者は24.7%(=6.1%+18.6%)となっており、認知度に約17ポイントの差がある。なお、他の項目と比べると、

認知度が最も低い。

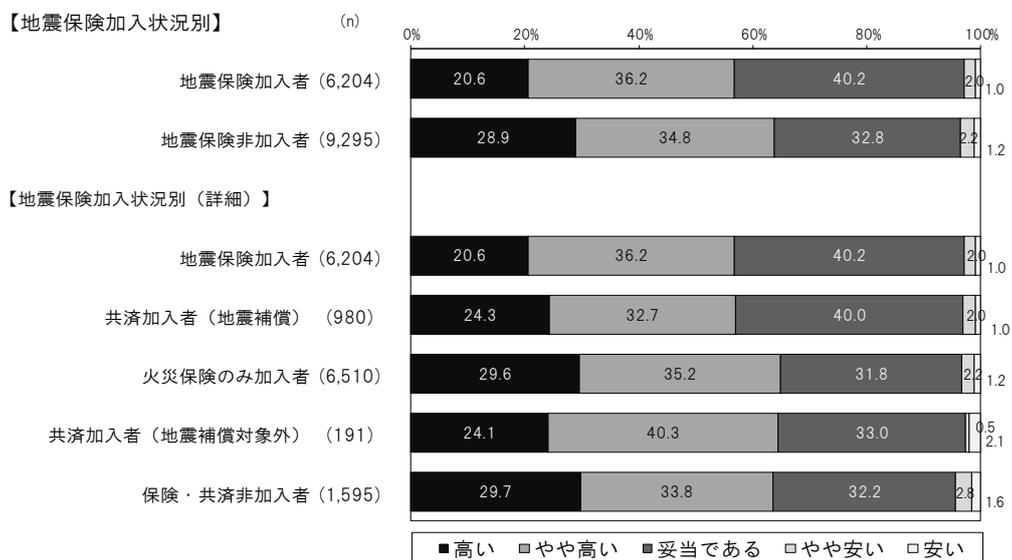
<1. 所得税から地震保険料控除制度が実施され、最高で5万円の控除が受けられる>ことについて、『知っている（計）』は、地震保険加入者は55.3%（=23.1%+32.2%）、非加入者は34.1%（=10.5%+23.6%）となっており、認知度に約21ポイントの差がある。

<m. 「被災者生活再建支援制度（被災者生活再建支援法）」に基づく国の制度がある>ことについて、『知っている（計）』は、地震保険加入者は56.6%（=15.0%+41.5%）、非加入者は45.6%（=8.9%+36.7%）となっており、認知度に約11ポイントの差がある。

<n. 災害救助法適用の自然災害で被災した場合、「被災ローン減免制度（自然災害による被災者の債務整理に関するガイドライン）」を利用することで、自己破産や民事再生などの債務整理によらず住宅ローンなどの借金を整理することができる>ことについて、『知っている（計）』は、地震保険加入者は47.4%（=11.3%+36.1%）、非加入者は34.4%（=5.8%+28.6%）となっており、認知度に13ポイントの差がある。

(2) 地震保険料の印象

Q62. この表内の保険料は、住居建物や家財を対象として地震保険に加入した場合の契約金額 1,000 万円あたりの 1 年間の保険料となりますが、地震保険料の印象についてあてはまるものをお答えください。(ひとつだけ)

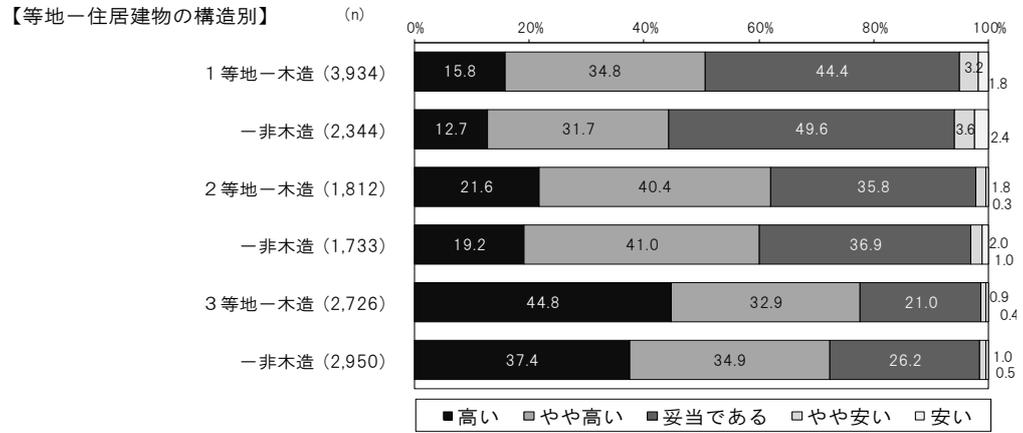


*アンケート内で回答者に確認いただいた資料は、〔付録2〕を参照

地震保険料の印象について、「高い」と「やや高い」を合わせた『高いと感じる (計)』は、地震保険加入者は56.8% (=20.6%+36.2%)、非加入者は63.7% (=28.9%+34.8%)となっており、いずれも半数以上が地震保険料は高いと回答している。

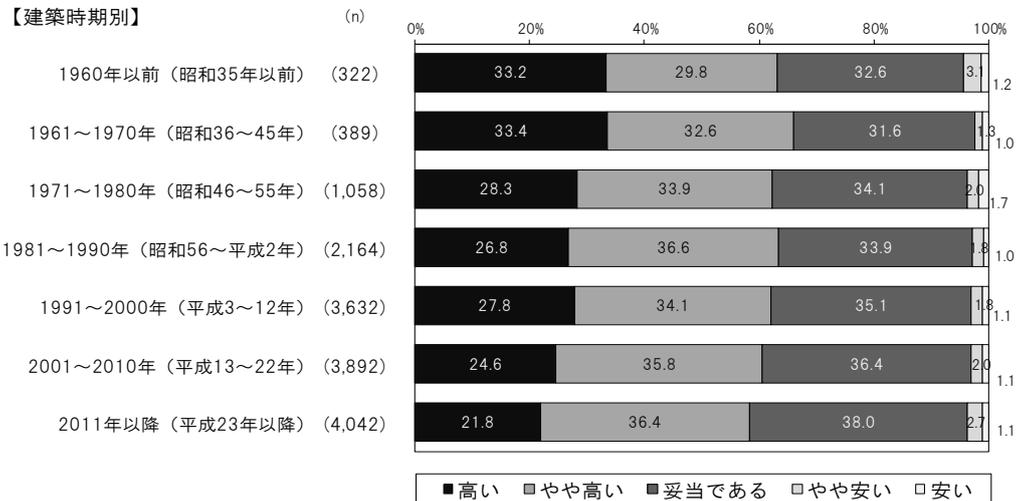
地震保険非加入者を詳細にみると、火災保険のみ加入者では『高いと感じる (計)』が64.8% (=29.6%+35.2%)を占めており、他の区分をやや上回る。

《参考1》地震保険料の印象を等地一住居建物の構造別に集計



《参考1》は、等地一住居建物の構造別に集計した結果である。『高いと感じる（計）』の比率は、非木造よりも木造の方が、また、等地（地震保険料）が高い方が多い。

《参考2》地震保険料の印象を住居建物の建築時期別に集計



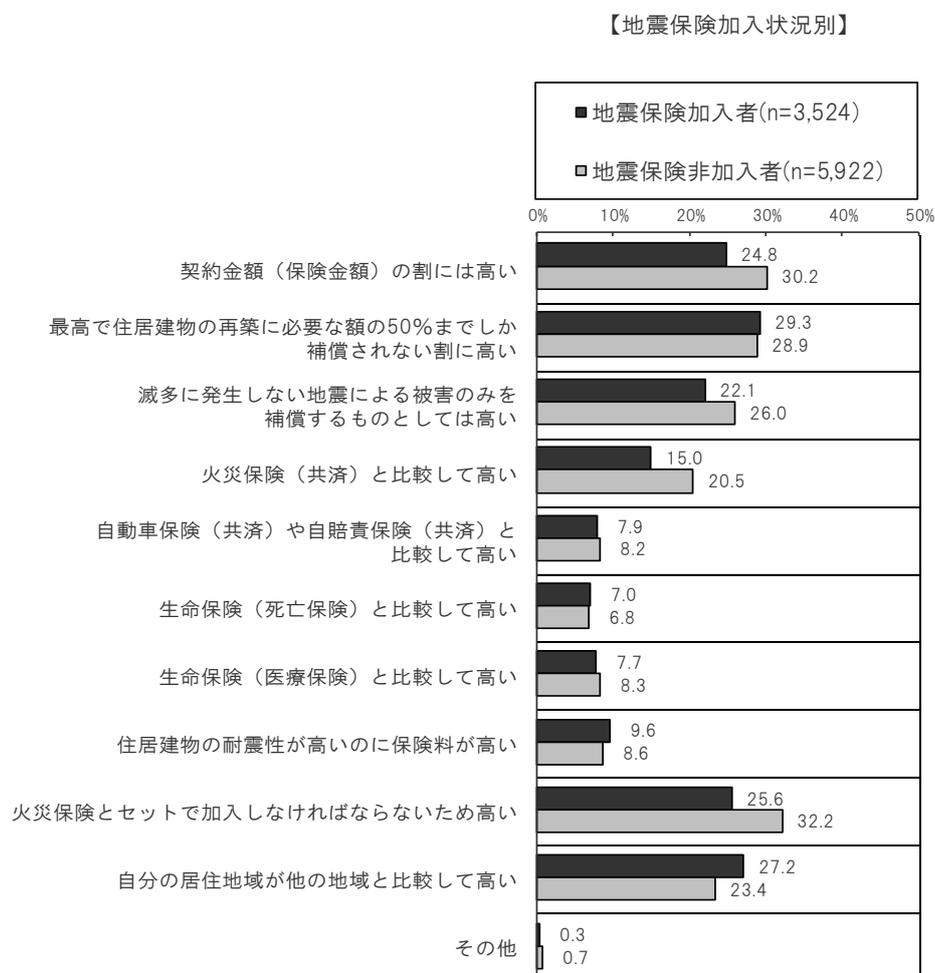
《参考2》は、住居建物の建築時期別に集計した結果である。いずれの建築時期においても、『高いと感じる（計）』は半数以上を占める。

(3) 地震保険料が高いと感じる理由

【Q62（保険料の印象）で「高い」「やや高い」と回答した人に】

Q63. では、「保険料が高い」とお答えになった理由について、

以下の中から、あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）



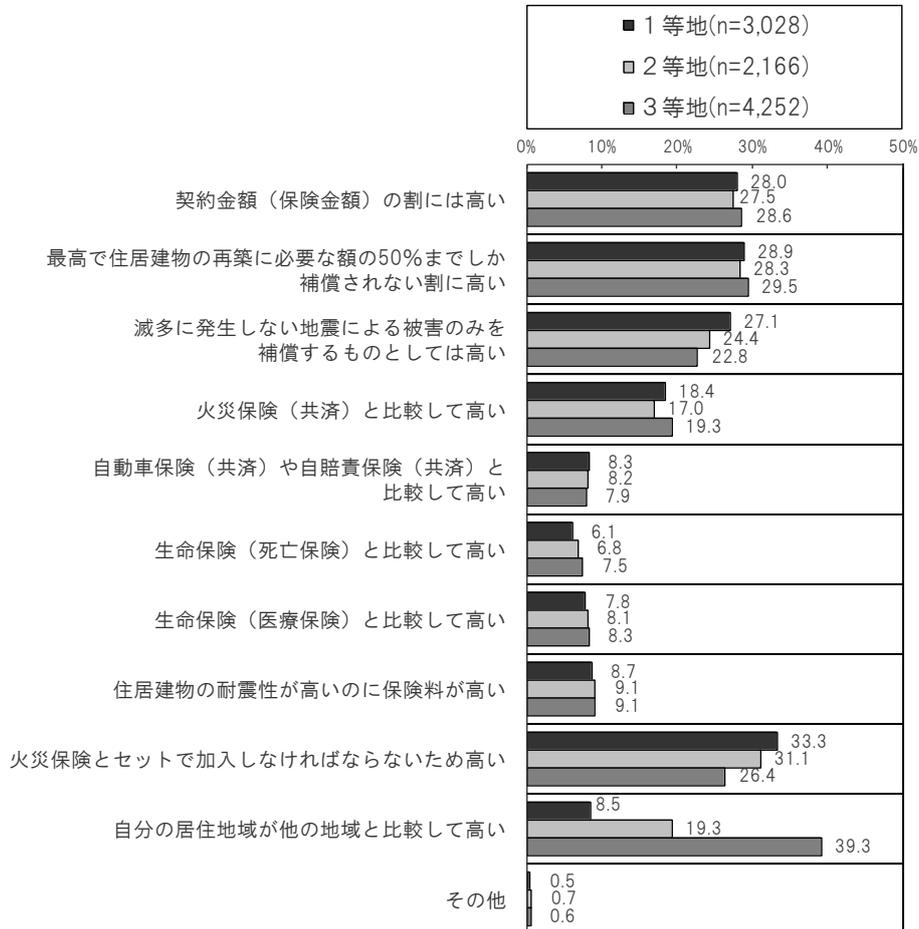
*アンケート内で回答者に確認いただいた資料は、【付録2】を参照

地震保険料について「高い」「やや高い」という印象を持つ人に、その理由を質問した。地震保険加入者では、「最高で住居建物の再築に必要な額の50%までしか補償されない割に高い」が29.3%と最も高く、次いで「自分の居住地域が他の地域と比較して高い」が27.2%となっている。

地震保険非加入者では、「火災保険とセットで加入しなければならないため高い」が32.2%と最も高く、「契約金額（保険金額）の割には高い」が30.2%で次いでいる。

《参考》地震保険料が高いと感じる理由を等別別に集計

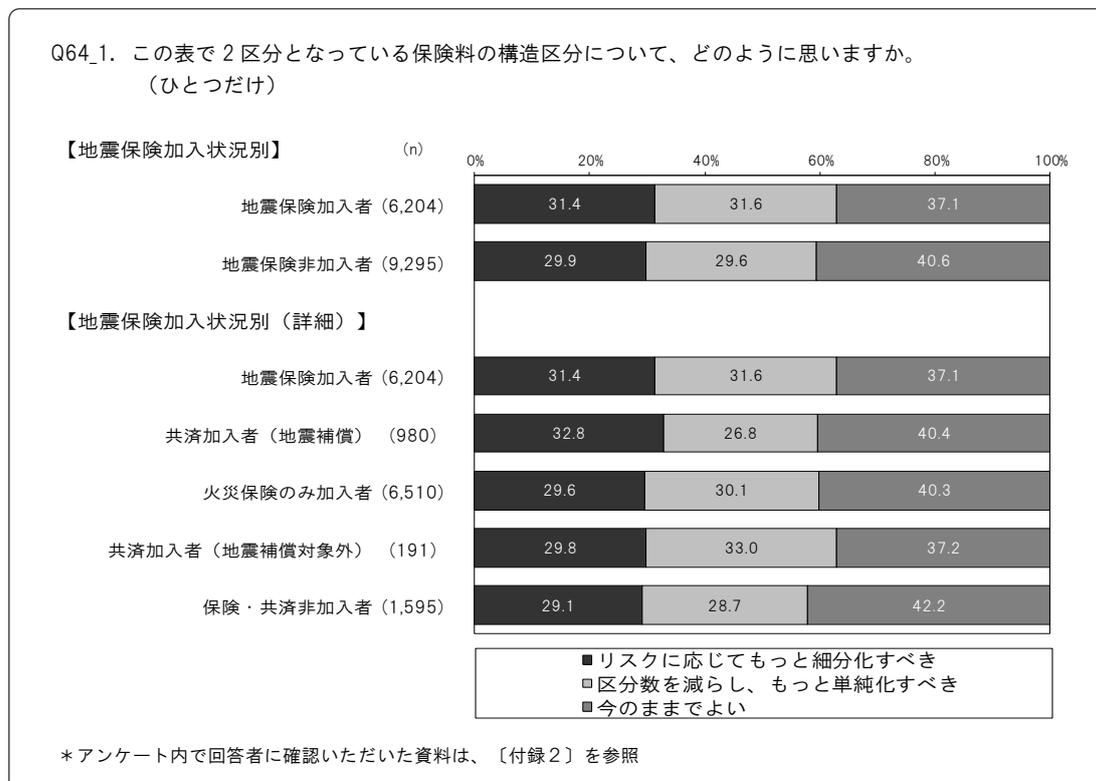
【等別別】



《参考》は、等別別に集計した結果である。「自分の居住地域が他の地域と比較して高い」を除くと、等別別の回答に大きな差はない。

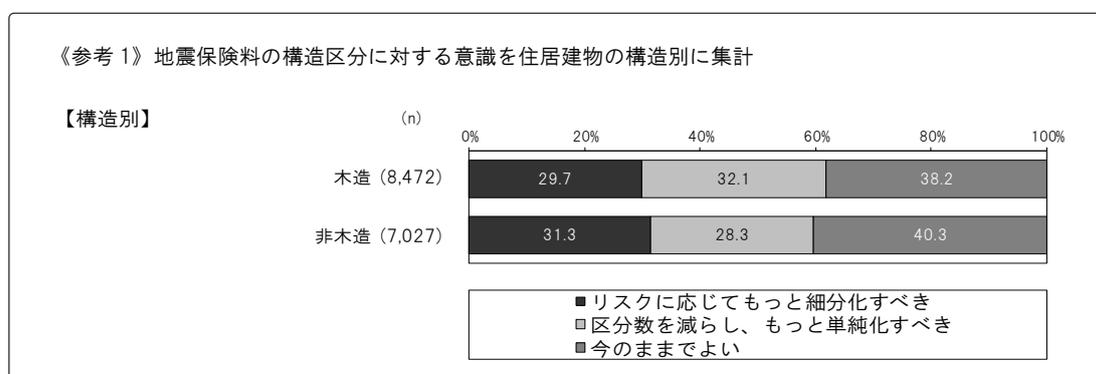
(4) 地震保険料の構造区分に対する意識

① 地震保険料の構造区分



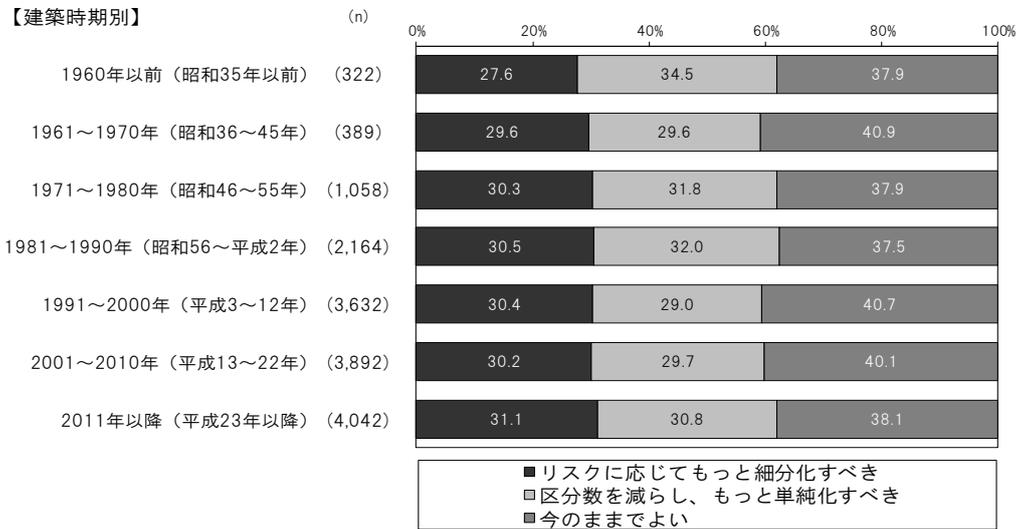
地震保険料の構造区分に対する意識をみると、地震保険加入者・非加入者ともに、「今のままでよい」が4割程度と最も高く、次いで「リスクに応じてもっと細分化すべき」、
「区分数を減らし、もっと単純化すべき」がそれぞれ3割程度と、同様の傾向となっている。

地震保険非加入者について詳細にみても、すべての区分で「今のままでよい」が約4割と、最も高い。



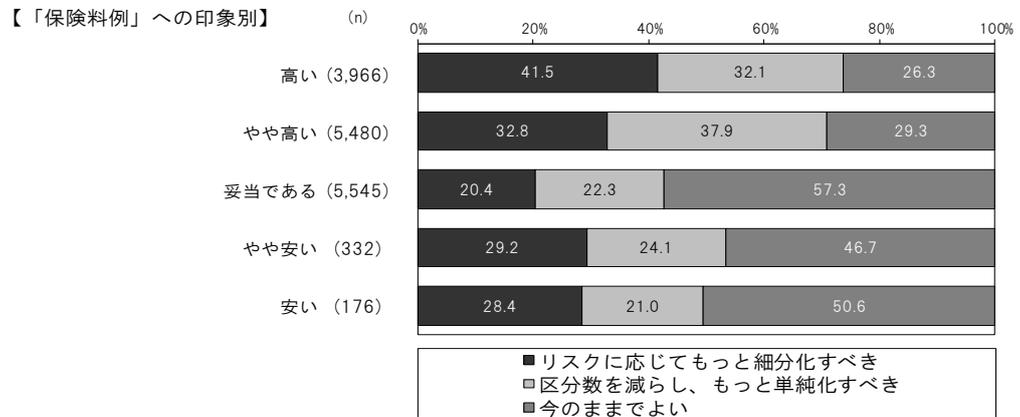
《参考1》は、住居建物の構造別に集計した結果である。構造別の回答結果に大きな差はない。

《参考2》地震保険料の構造区分に対する意識を建築時期別に集計



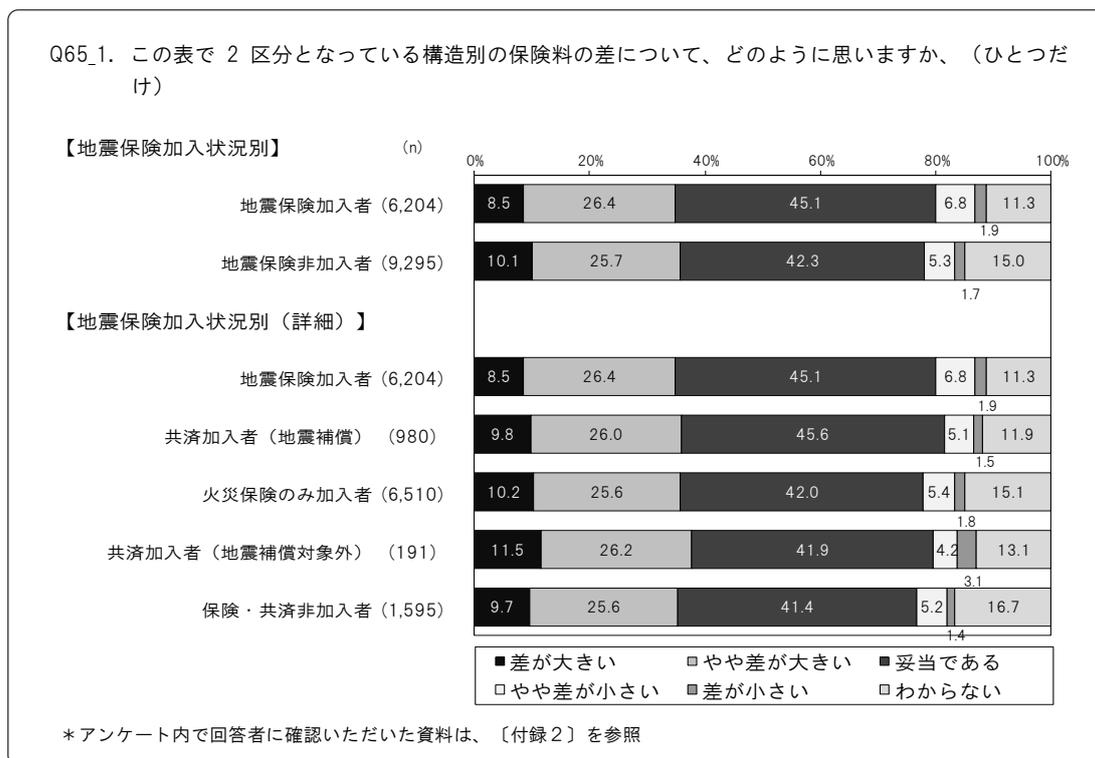
《参考2》は、住居建物の建築時期別に集計した結果である。建築時期別の回答結果に大きな差はない。

《参考3》地震保険料の構造区分に対する意識を「保険料例」への印象別に集計



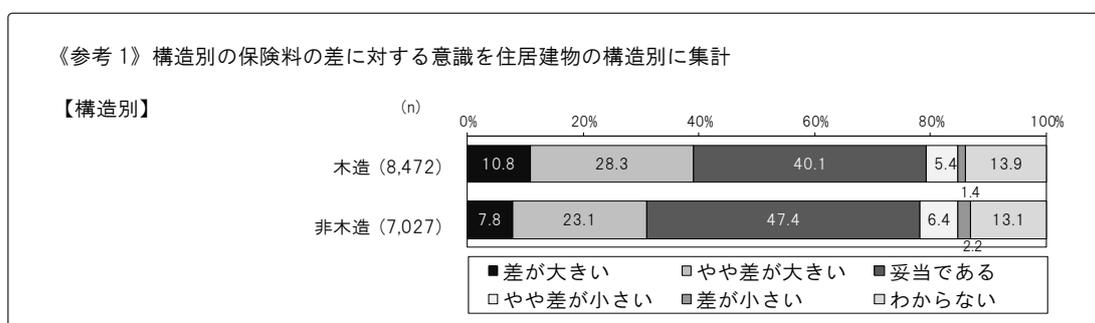
《参考3》は、「保険料例」への印象別に集計した結果である。地震保険料に「高い」「やや高い」という印象を持っている者は、「リスクに応じてもっと細分化すべき」が他層を上回る。

②地震保険料の構造別の差に対する意識



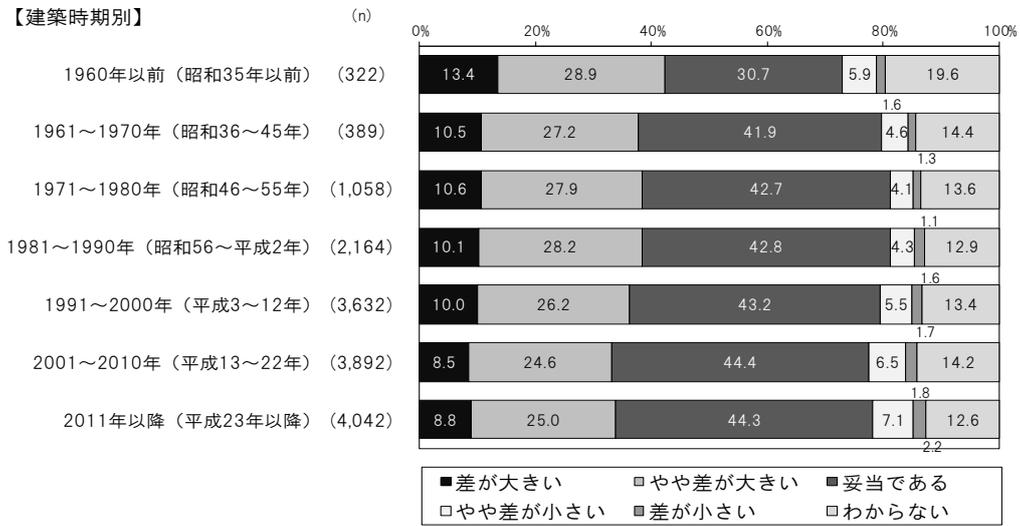
地震保険料の構造別の差に対する意識をみると、地震保険加入者では「妥当である」の比率が45.1%と最も高く、「差が大きい」と「やや差が大きい」を合わせた『差が大きい（計）』では34.9%（＝8.5%＋26.4%）となっており、「やや差が小さい」と「差が小さい」を合わせた『差が小さい（計）』の8.6%（＝6.8%＋1.9%）を大きく上回る。地震保険非加入者も、同様の傾向である。ただし、地震保険加入者・非加入者ともに「わからない」が1割程度を占める。

地震保険非加入者を詳細にみると、保険・共済非加入者では「わからない」が16.7%となっており、他の区分をやや上回る。



《参考1》は、住居建物の構造別に集計した結果である。『妥当である』の比率は、木造が40.1%、非木造が47.4%で、約7ポイントの差がある。

《参考2》構造別の地震保険料の差に対する意識を建築時期別に集計

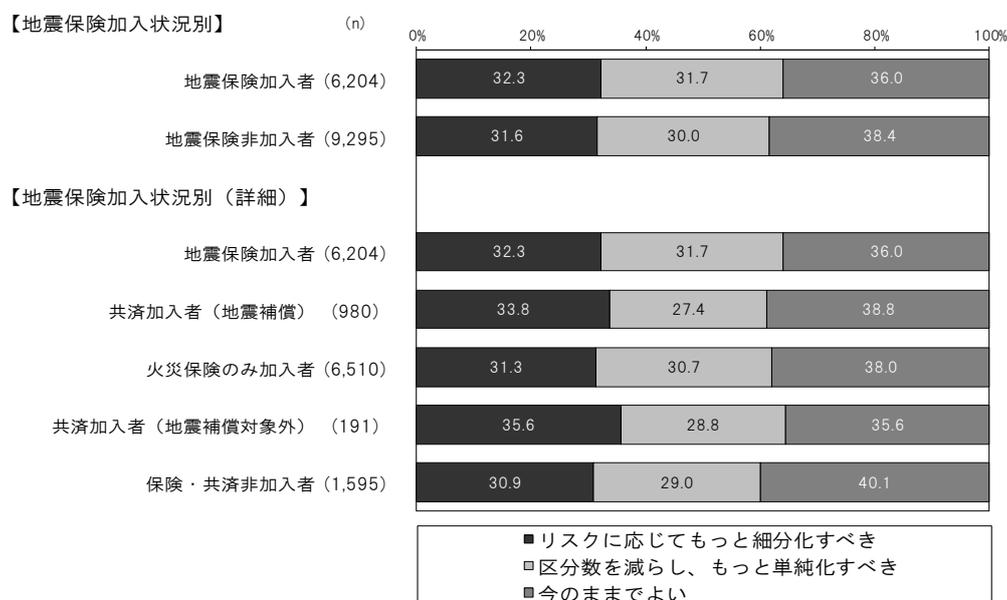


《参考2》は、住居建物の建築時期別に集計した結果である。1960年以前（昭和35年以前）は他の区分に比べて「妥当である」との回答が10ポイント程度下回っているものの、傾向としては建築時期別で大きな差はない。

(5) 地震保険料の地域区分に対する意識

① 地震保険料の地域区分

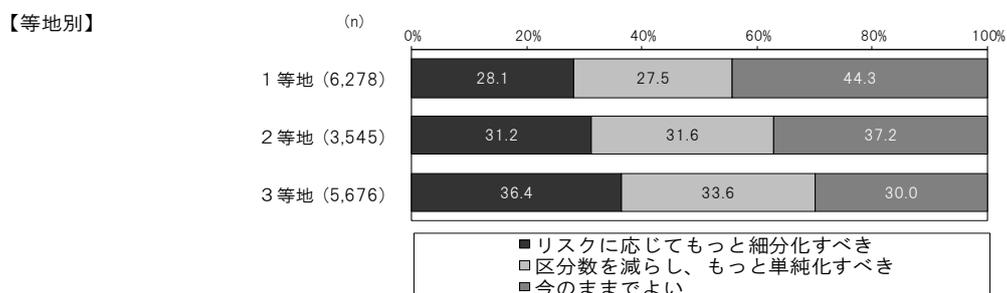
Q64_2. この表で5区分となっている都道府県単位での保険料の地域区分について、どのように思いますか。(ひとつだけ)



* アンケート内で回答者に確認いただいた資料は、〔付録2〕を参照

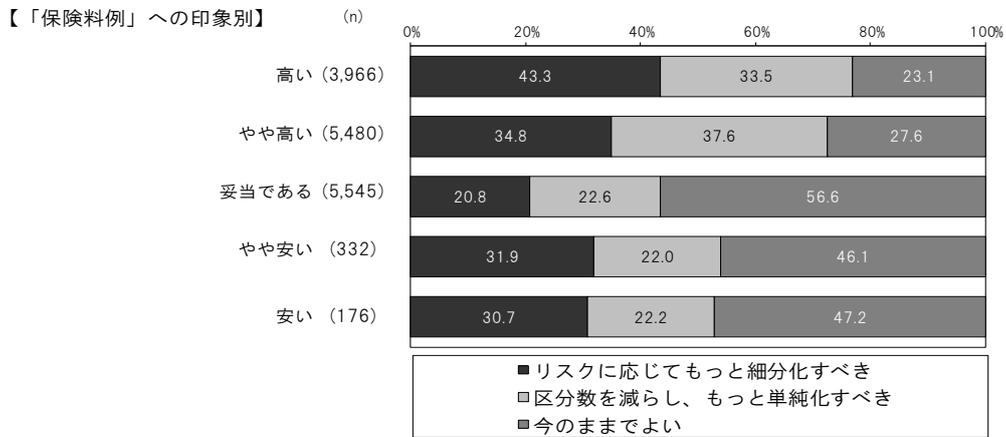
地震保険料の地域区分に対する意識をみると、地震保険加入者・非加入者ともに、「今のままでよい」が3割半ばと最も高く、次いで「リスクに応じてもっと細分化すべき」、「区分数を減らし、もっと単純化すべき」がそれぞれ3割程度と同様の傾向となっている。地震保険非加入者を詳細にみると、保険・共済非加入者では、「今のままでよい」が40.1%で、他の区分をやや上回る。

《参考1》地震保険料の地域区分に対する意識を等地別に集計



《参考1》は、等地別に集計した結果である。1等地から3等地へと等地(地震保険料)が高くなるにつれて、「今のままでよい」の比率が低くなり、「リスクに応じてもっと細分化すべき」と「区分数を減らし、もっと単純化すべき」の比率が高くなる。

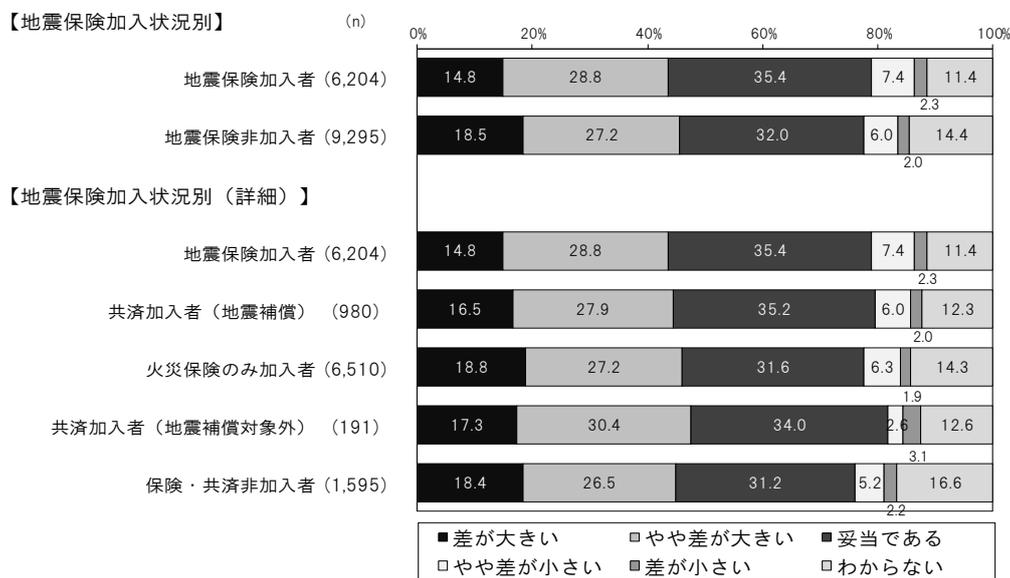
《参考2》地震保険料の地域区分に対する意識を「保険料例」への印象別に集計



《参考2》は、「保険料例」への印象別に集計した結果である。地震保険料に「高い」または「やや高い」という印象を持っている者は、「今のままでよい」の比率が他層より低く、「リスクに応じてもっと細分化すべき」と「区分数を減らし、もっと単純化すべき」の両方の比率が、他層を上回る。

②地震保険料の都道府県別の差に対する意識

Q65_2. この表で5区分となっている都道府県別での保険料の差について、どのように思いますか、
(ひとつだけ)

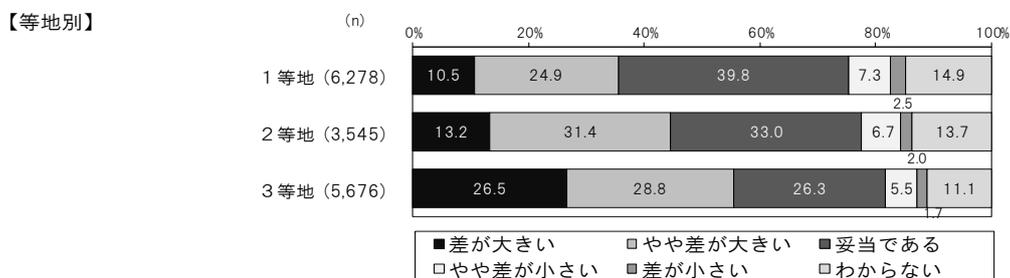


*アンケート内で回答者に確認いただいた資料は、【付録2】を参照

地震保険料の都道府県別の差に対する意識をみると、地震保険加入者では「差が大きい」と「やや差が大きい」を合わせた『差が大きい（計）』の比率が43.6%（＝14.8%＋28.8%）となっており、「やや差が小さい」と「差が小さい」を合わせた『差が小さい（計）』の9.6%（＝7.4%＋2.3%）を大きく上回る。地震保険非加入者においても、同様の傾向である。ただし、地震保険加入者・非加入者ともに「わからない」が1割程度を占める。

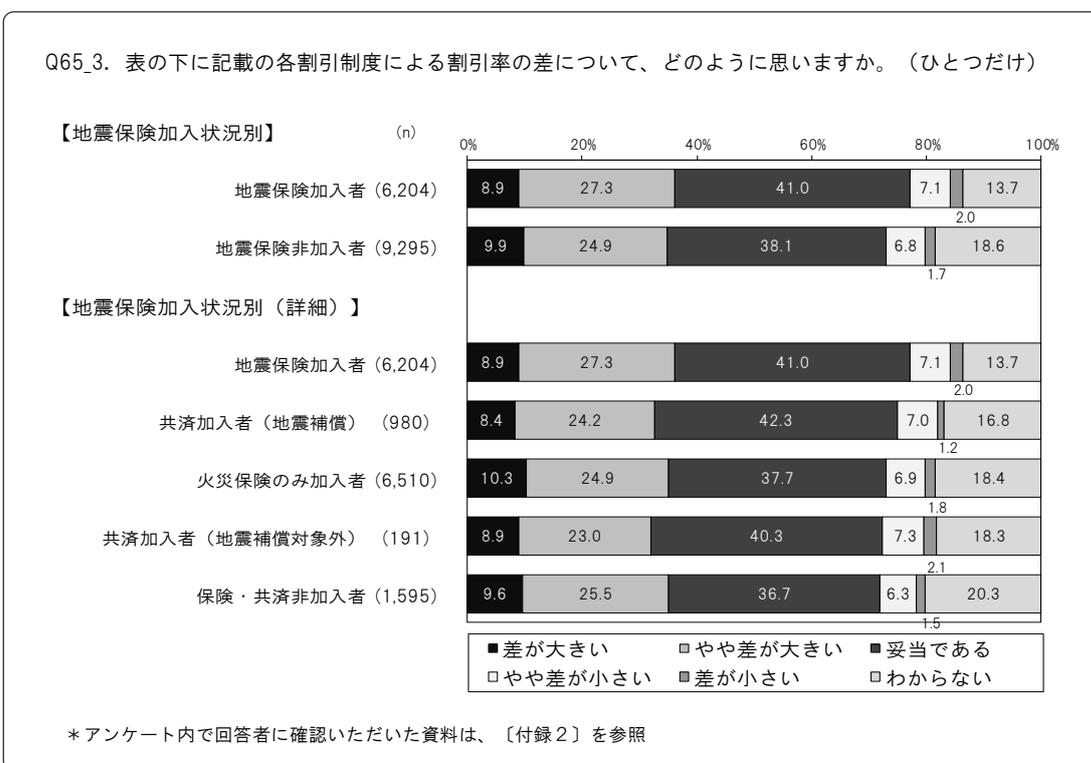
地震保険非加入者を詳細にみると、保険・共済非加入者では「わからない」が16.6%となっており、他の区分をやや上回る。

《参考》都道府県別の地震保険料の差に対する意識を等地別に集計



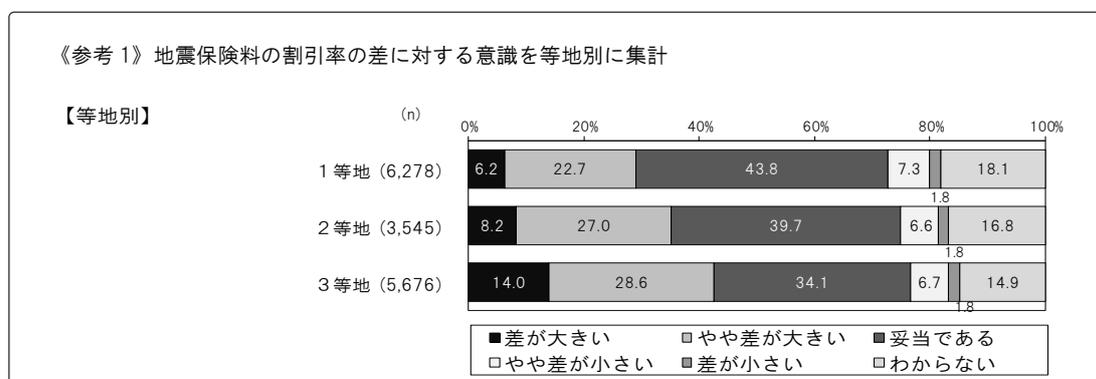
《参考》は、等地別に集計した結果である。1等地から3等地へと等地（地震保険料）が高くなるにつれて、『差が大きい（計）』が高く、「妥当である」が低くなる傾向がみられる。

(6) 地震保険料の割引率の差に対する意識

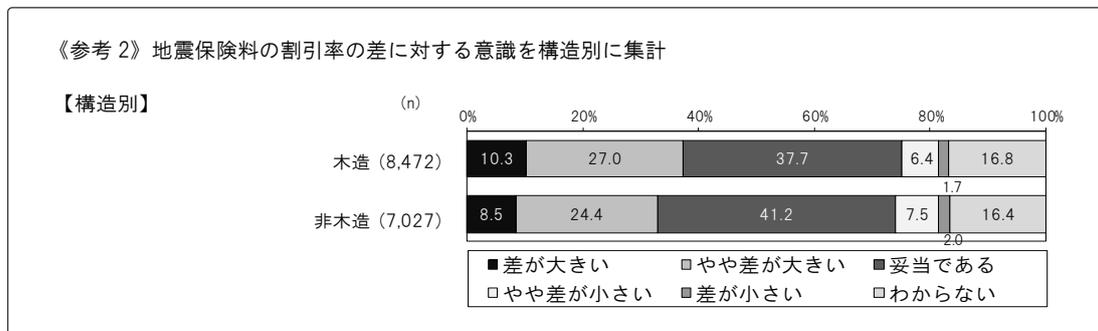


地震保険料の割引率の差に対する意識をみると、地震保険加入者では「差が大きい」と「やや差が大きい」を合わせた『差が大きい（計）』が36.2%（=8.9%+27.3%）、「妥当である」が41.0%となっており、「やや差が小さい」と「差が小さい」を合わせた『差が小さい（計）』の9.1%（=7.1%+2.0%）を大きく上回る。地震保険非加入者においても、同様の傾向となっている。ただし、地震保険加入者・非加入者ともに「わからない」が1～2割程度を占める。

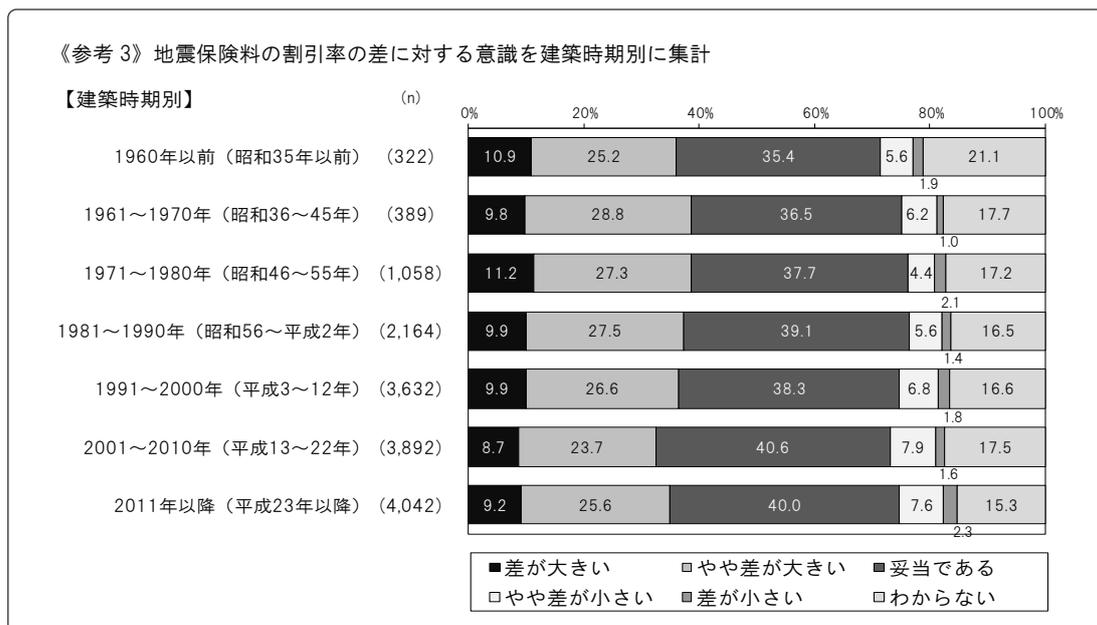
地震保険非加入者を詳細にみると、保険・共済非加入者では「わからない」が20.3%となっており、他の区分をやや上回る。



《参考1》は、等地別に集計した結果である。1等地から3等地へと等地（地震保険料）が高くなるにつれて、『差が大きい（計）』が高く、「妥当である」が低くなる傾向がみられる。



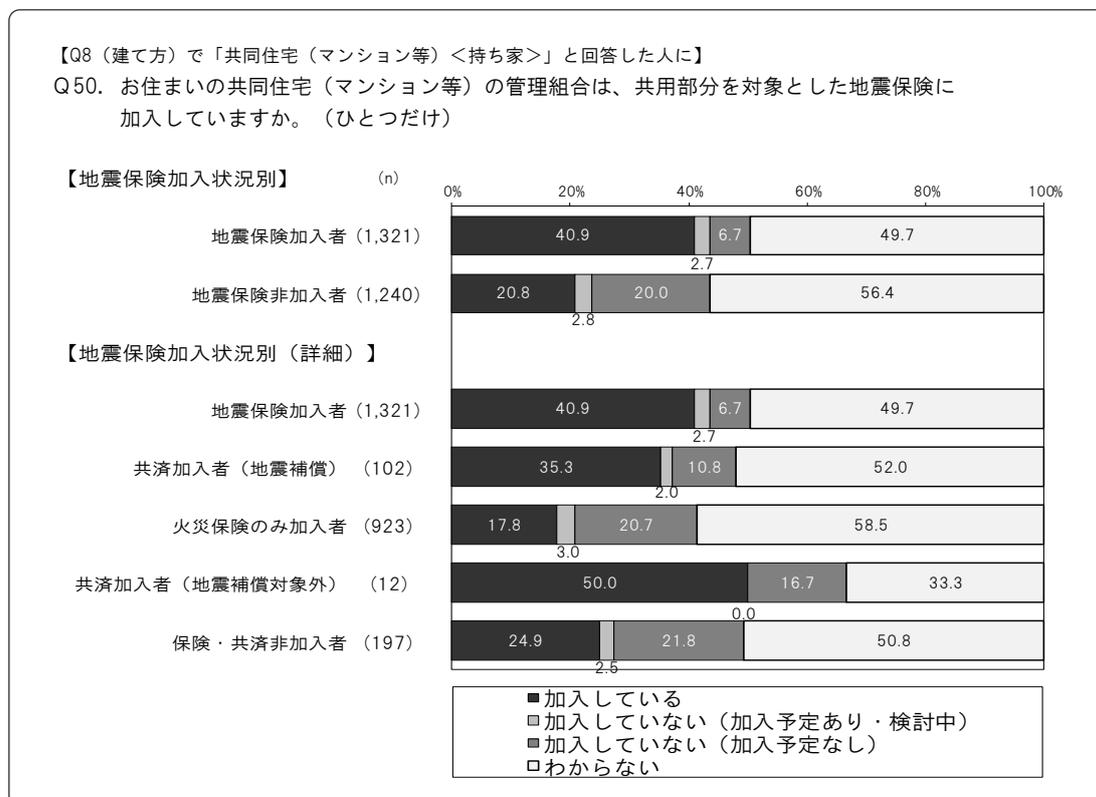
《参考2》は、住居建物の構造別に集計した結果である。非木造の方が「妥当である」がやや高く、『差が大きい（計）』がやや低い。



《参考3》は、住居建物の建築時期別に集計した結果である。建築時期が新しい方が「妥当である」の比率がやや高い傾向がある。

7. 共同住宅の共用部分の地震保険加入状況

① 共用部分の地震保険加入の有無



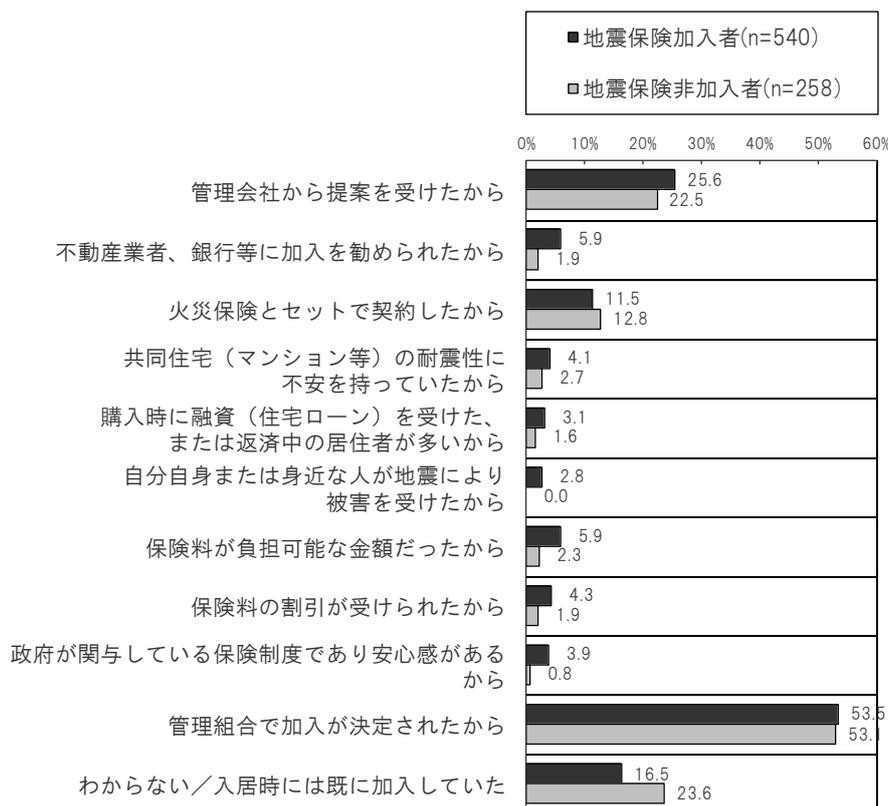
共同住宅の共用部分の地震保険加入有無をみると、地震保険加入者・非加入者ともに「わからない」の比率が5割前後を占める。「加入している」は、地震保険加入者は40.9%と4割を占めるのに対し、非加入者では20.8%となっており、約20ポイントの差がある。

② 共用部分を対象とした地震保険に加入した理由

【Q50（共用部分の地震保険加入の有無）で「加入している」と回答した人に】

Q51. お住まいの共同住宅（マンション等）の管理組合が共用部分を対象とした地震保険に加入した理由（きっかけ）は何ですか。（いくつでも）

【地震保険加入状況別】



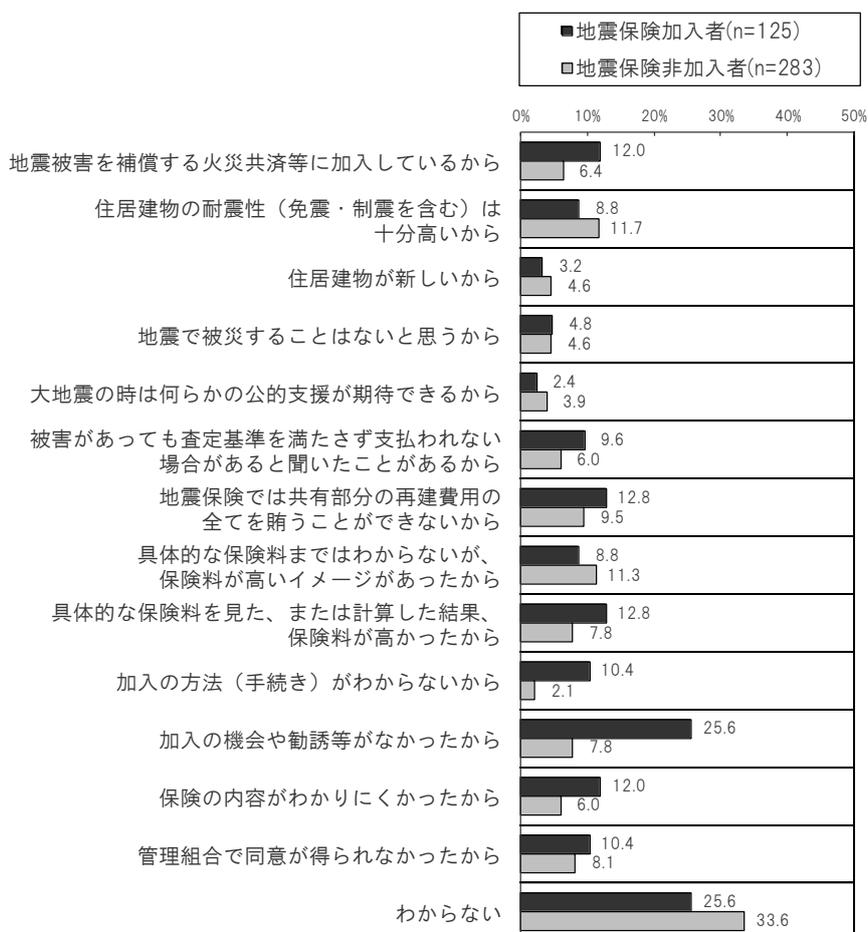
共同住宅の共用部分の地震保険に加入している人に、加入した理由を質問した。地震保険加入者・非加入者ともに「管理組合で加入が決定されたから」が最も多く、「管理会社から提案を受けたから」が次いでいる。

③ 共用部分を対象とした地震保険に加入していない理由

【Q50（共用部分の地震保険加入の有無）で「加入していない」と回答した人に】

Q52. 共同住宅（マンション等）の共有部分は地震保険に加入していないとお答えになった方に伺います。現状で加入していない理由をお聞かせください。（いくつでも）

【地震保険加入状況別】



共同住宅の共用部分の地震保険に加入していない人に、加入していない理由を質問した。地震保険加入者・非加入者ともに「わからない」の比率が3割前後と最も多い。

加入していない理由としては、地震保険加入者では「加入の機会や勧誘等がなかったから」が25.6%で最も高く、非加入者では「住居建物の耐震性（免震・制震を含む）は十分高いから」が11.7%で最も高い。